

横須賀市民アンケート報告書

令和3年（2021年）5月

横 須 賀 市

は じ め に

横須賀市では、「横須賀再興プラン（2018～2021）」に基づき、市が持つ地域の魅力や特性を生かして、将来に向けて希望や期待の持てるまちの実現を目指しています。

今回のアンケートでは、市民の皆さまの生活意識や横須賀市の取り組みに対する実感をお伺いしました。

調査で得られた結果は、現在の取り組みの改善や、今後の政策・施策の立案にあたって、基礎的なデータとして活用してまいります。

最後になりましたが、調査にご協力いただきました市民の皆さまに、厚くお礼申し上げます。

令和3年（2021年）5月

経営企画部都市戦略課

目次

1. 調査目的および実施方法等.....	1
1、調査目的および調査項目.....	2
2、調査概要.....	3
3、その他.....	3
2. 集計結果.....	5
I. 横須賀の主な取り組みについて.....	6
問1 取り組みの認知度.....	6
問2 進んでいる実感のある取り組み.....	8
問3 横須賀全体に、良い影響を与えていると感じるものとその理由.....	11
II. 市政に対する評価と要望.....	15
問4 市政に対する評価.....	15
問5 市政に対する要望.....	16
問6 市政に対する満足度.....	17
III. 定住意識について.....	18
問7 居住年数.....	18
問8 前住地.....	19
問9 定住意向.....	19
問9-1 希望する転居先.....	22
問10 定住意識の向上に関わる取り組みの必要度.....	23
IV. 暮らしやすさについて.....	27
問11 暮らしやすさ.....	27
問12 暮らしやすい環境.....	30
問13 転居時に重視する環境.....	32
問14 住まいに関する意見への共感度.....	34

V. 生活意識について	38
問 1 5 分野別主観満足度	38
問 1 6 総合主観満足度	39
問 1 7 総合主観満足度と分野別主観満足度の関係	39
問 1 8 心配ごとや困っていること	40
VI. 隣近所や地域とのつき合いについて	42
問 1 9 隣近所とのつき合い方	42
問 2 0 隣近所とのつき合いの感じ方	43
問 2 1 地域での参加活動	44
問 2 2 今後の地域との関わり	45
3. 基本的な属性	47
4. 調査票	51

1. 調査目的および実施方法等

1、調査目的および調査項目

市民の生活意識や横須賀市の取り組みに対する実感を把握し、今後の市政運営や政策立案の基礎資料として活用するため、以下の項目についてアンケート調査を実施した。

【調査項目】

設問番号	項目
Ⅰ. 横須賀の主な取り組みについて	
問 1～3	「市が進めている主な取り組みに対する認知度や実感」について
Ⅱ. 市政に対する評価と要望	
問 4～6	「市の具体的な取り組みに対する実感や満足度」について
Ⅲ. 定住意識について	
問 7～10	「居住年数、前住地、現住地定住意向、希望する転居先など」について
Ⅳ. 暮らしやすさについて	
問 11～14	「周辺環境の評価や重視する点、住まいに関する価値観など」について
Ⅴ. 生活意識について	
問 15～18	「生活満足度や心配ごとや困っていることなど」について
Ⅵ. 隣近所や地域とのつき合いについて	
問 19～22	「隣近所とのつき合い方や地域との関わりなど」について
基本的な属性	
F1～F8	F1 性別、F2 年齢、F3 居住地域、F4 結婚の有無、 F5 世帯構成、F6 同居状況、F7 住宅形態、F8 職業

2、調査概要

調査対象	15 歳以上～89 歳以下の市民 3,000 人 (令和 2 年 (2020 年) 12 月 1 日現在：住民基本台帳から無作為抽出)
調査方法	・対象者に調査票を郵送配布 ・回答方法は、郵送とインターネットのいずれかを選択
調査期間	令和 3 年 1 月 4 日～1 月 26 日 ※発送日－投函締切日
回収数	1603 件 うち、インターネット回答；380 件
回収率	53.4% うち、インターネット回答；23.7%

3、その他

調査の企画・分析は、経営企画部都市戦略課で実施。

基数となるべき実数は、各設問に対する有効回答者数である。

なお、結果数値は、表章単位未満を四捨五入しているので、内訳の合計が計 (100.0%) にならないこともある。また、複数回答の設問では、割合の合計が 100.0%を超える。

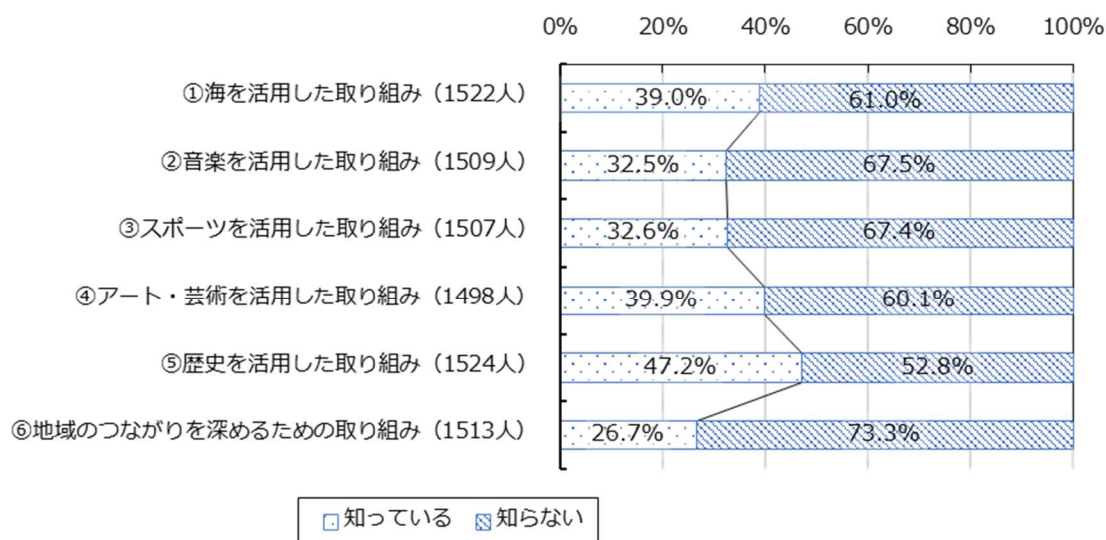
2. 集計結果

I. 横須賀の主な取り組みについて

問1 あなたは、横須賀市の次のような取り組みについて知っていますか。
(○はそれぞれ1つ)

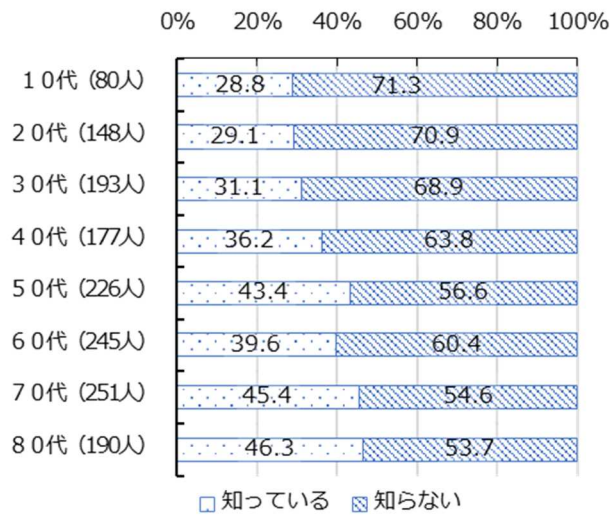
- 6つの取り組みの中で『歴史を活用した取り組み』の認知度が約5割で最も高く、『アート・芸術を活用した取り組み』『海を活用した取り組み』についての認知度も4割近い結果となった。
- 年代別では、いずれも『歴史を活用した取り組み』の認知度が高い。
ペリー上陸の地、開国の地である歴史的背景、近代日本の先駆けとなった歴史を生かした取り組みなどが、市民の歴史への興味・関心に影響していると考えられる。特に、近代化遺産や文化財を中心に、市内全体を軍港資料館としてとらえた「ルートミュージアム」の取り組みなどが、『歴史を活用した取り組み』の認知度向上に大きく作用していると考えられる。

図表－問1－① 取り組みの認知度

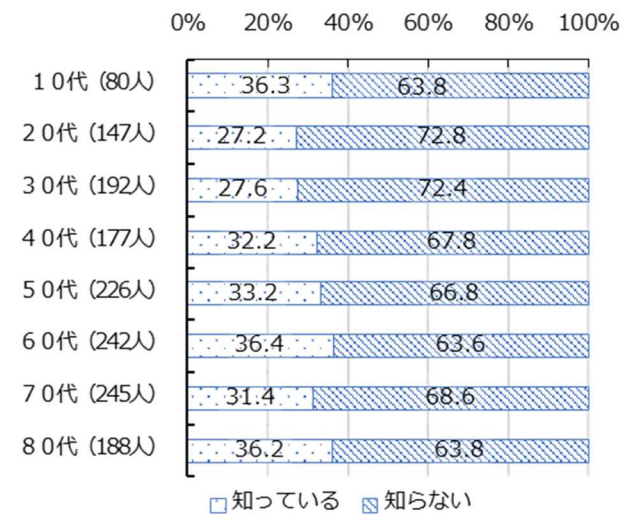


図表－問1－② 取り組みの認知度（年代別）

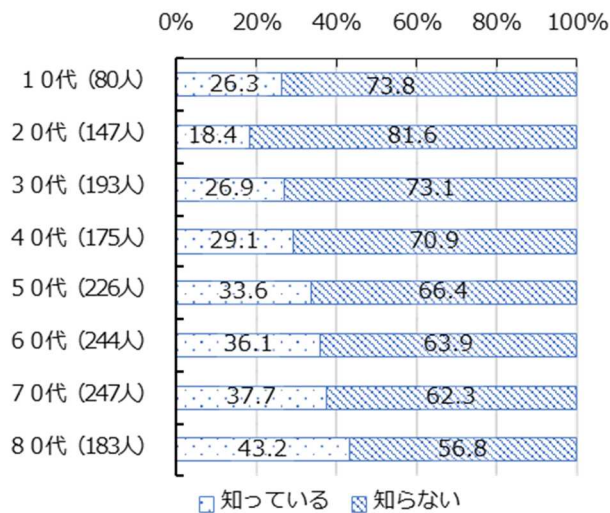
①海を活用した取り組み（N=1522人）



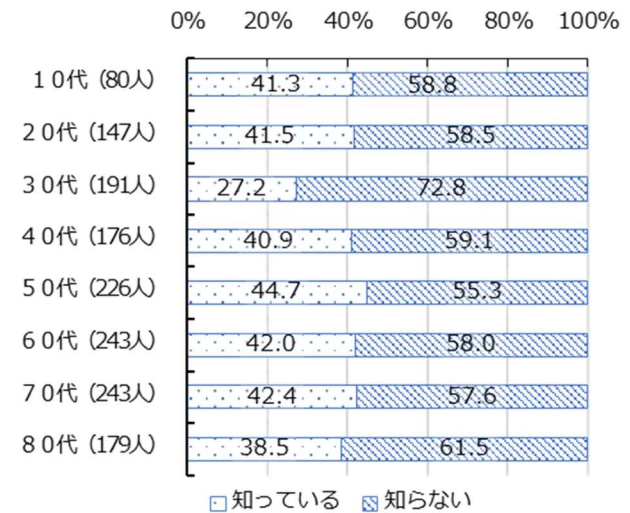
②音楽を活用した取り組み（N=1509人）



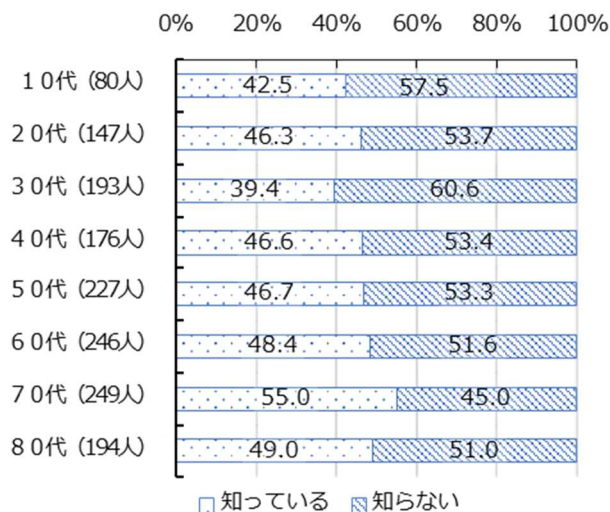
③スポーツを活用した取り組み（N=1507人）



④アート・芸術を活用した取り組み（N=1498人）

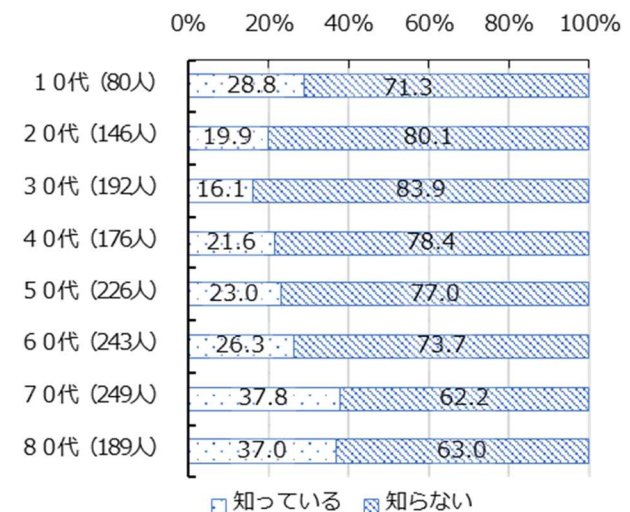


⑤歴史を活用した取り組み（N=1524人）



⑥地域のつながりを深めるための取り組み

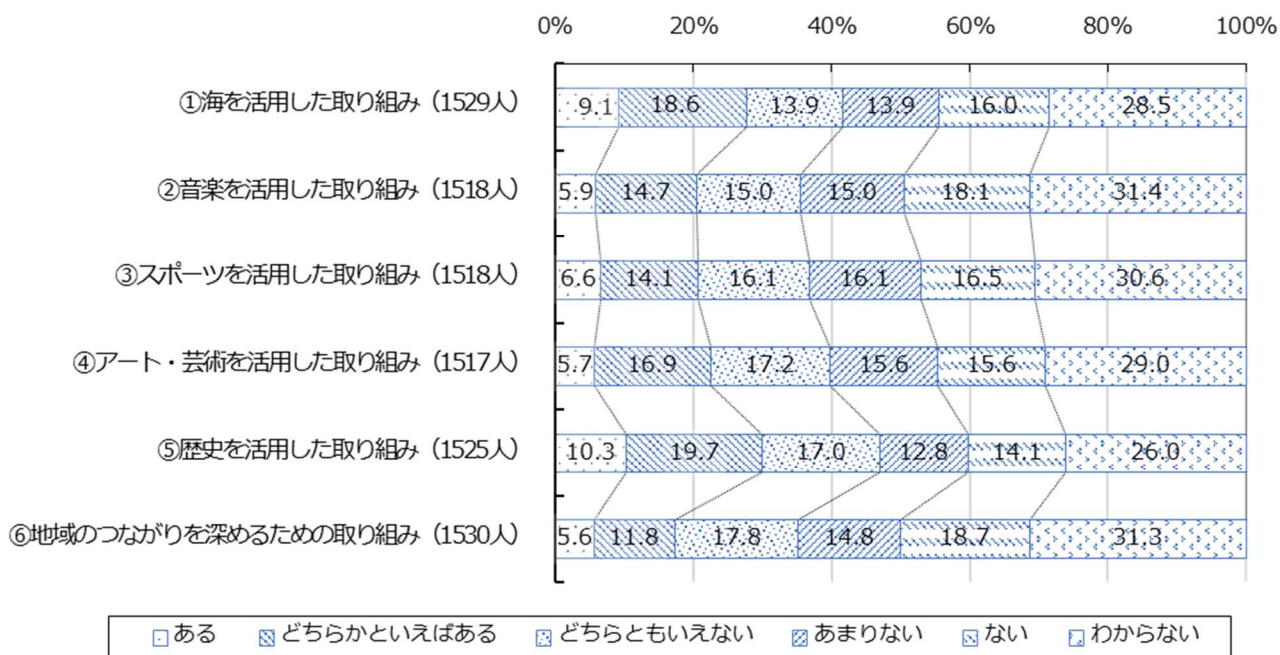
(N=1513人)



問2 今の横須賀市で、次の取り組みが進んでいる実感はありますか。
(○はそれぞれ1つ)

- 『歴史を活用した取り組み』『海を活用した取り組み』については、3割近くが『実感がある(計)』¹を選択。一方で、どの取り組みについても、3割前後「わからない」が選択された。
- 年代別にみると、『音楽を活用した取り組み』は、10代の『実感がある(計)』が高く、『アート・芸術を活用した取り組み』は、40代の『実感がある(計)』が高い。このように年齢によって関心の高さに違いがみられる。
- 前回調査²と比べると、どの取り組みも『実感がある(計)』が減少し、「わからない」が増えている。他方『実感がない(計)』³は、あまり変化がない。
「わからない」が増えた要因として、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、関係する様々なイベントや活動が中止となり、市民への十分な発信ができなかったことが影響していると推察される。

図表－問2－① 進んでいる実感のある取り組み



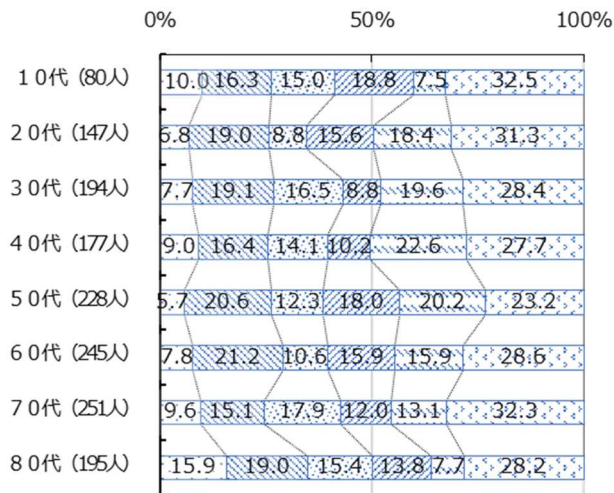
¹ 「ある」と「どちらかといえばある」の合計

² 「横須賀市民アンケート」平成30年度調査

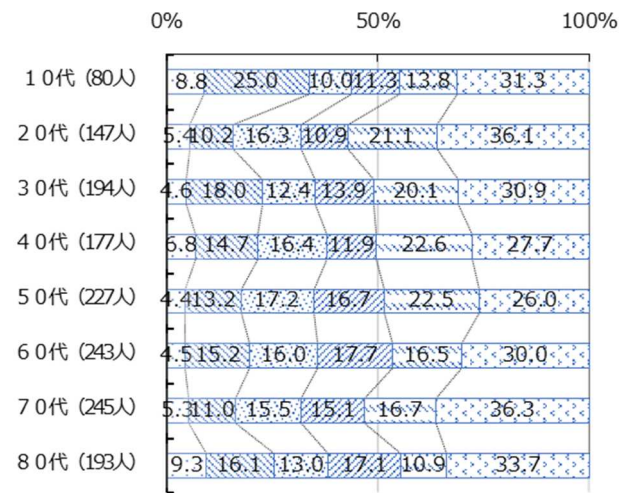
³ 「ない」と「あまりない」の合計

図表－問２－② 進んでいる実感のある取り組み（年代別）

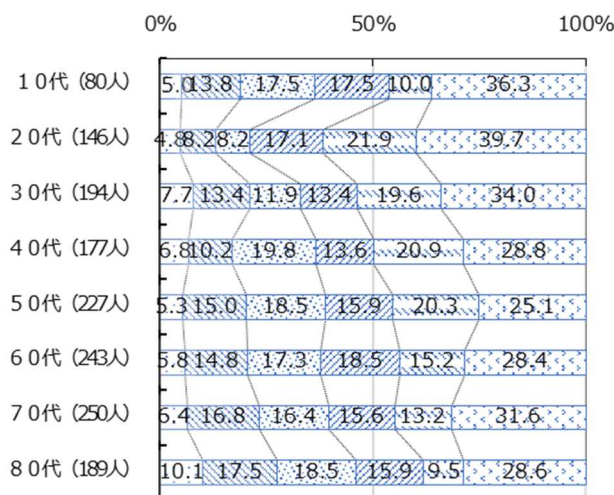
①海を活用した取り組み（N=1529人）



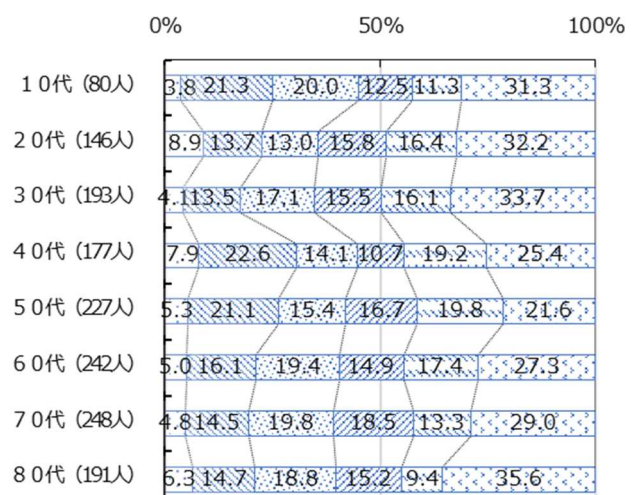
②音楽を活用した取り組み（N=1518人）



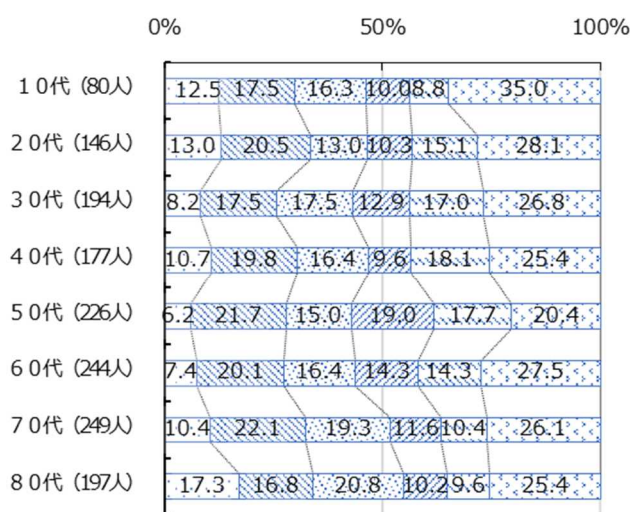
③スポーツを活用した取り組み（N=1518人）



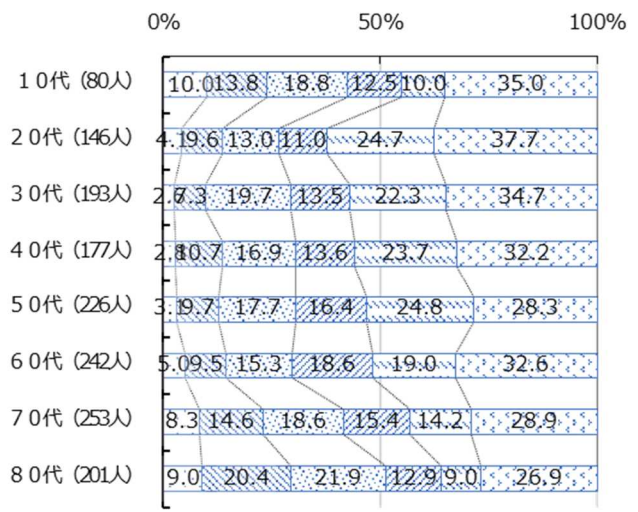
④アート・芸術を活用した取り組み（N=1517人）



⑤歴史を活用した取り組み（N=1525人）



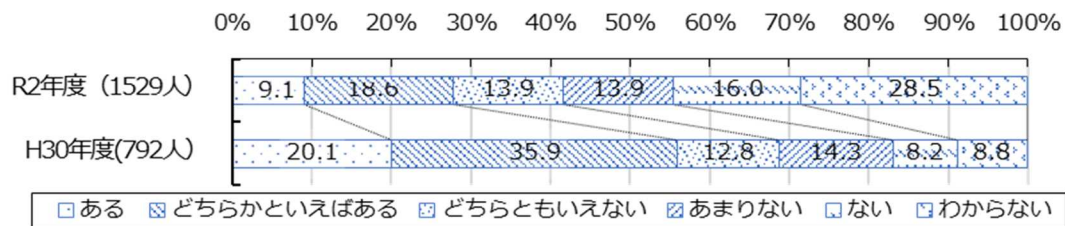
⑥地域のつながりを深めるための取り組み（N=1530人）



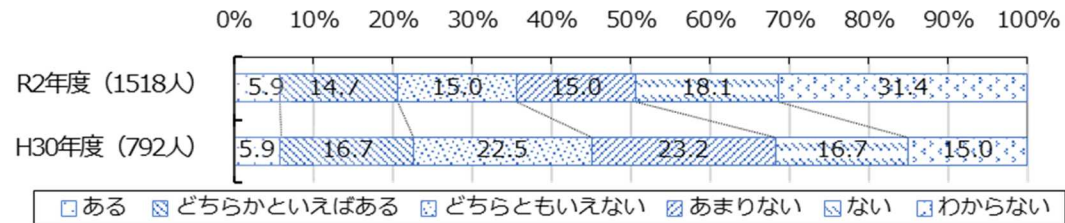
□ ある □ どちらかといえばある □ どちらともいえない □ あまりない □ ない □ わからない

図表－問２－③ 進んでいる実感のある取り組み（平成 30 年度との比較）

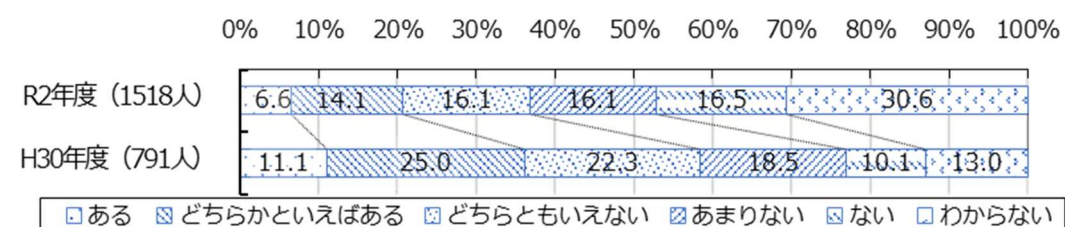
①海を活用した取り組み（N=1529 人）



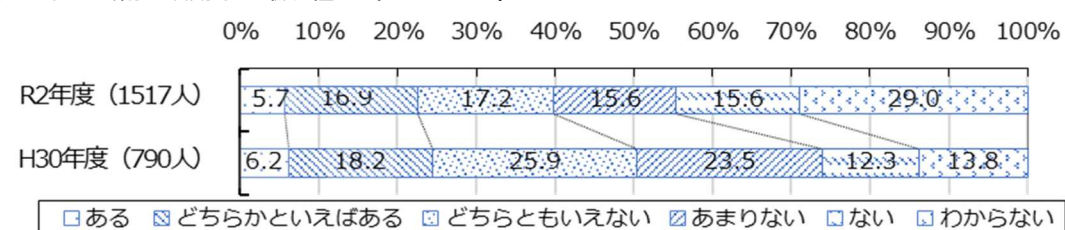
②音楽を活用した取り組み（N=1518 人）



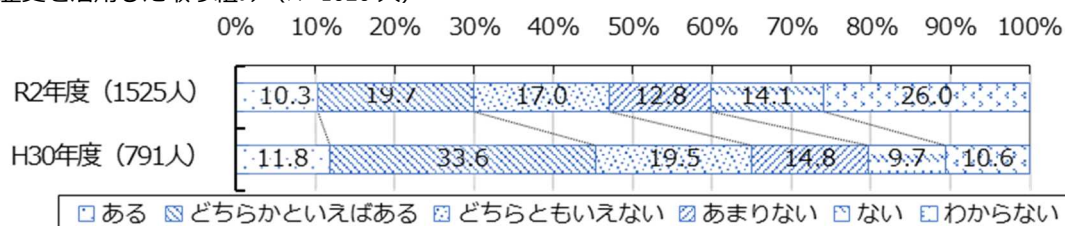
③スポーツを活用した取り組み（N=1518 人）



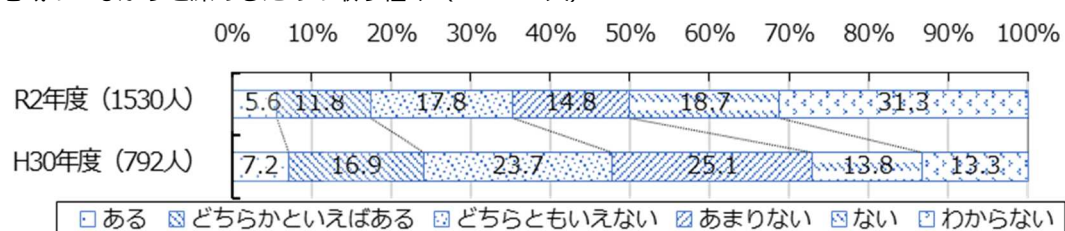
④アート・芸術を活用した取り組み（N=1517 人）



⑤歴史を活用した取り組み（N=1525 人）



⑥地域のつながりを深めるための取り組み（N=1530 人）

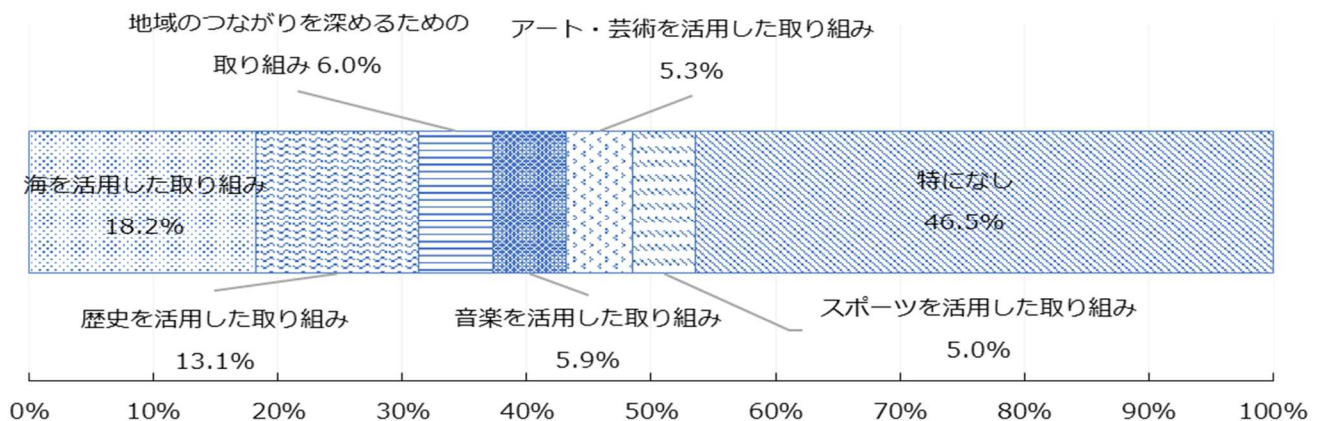


問3 次の取り組みの中で、横須賀全体に、良い影響を与えていると感じるものを選んでください。(〇は1つ) また、その理由もお答えください。

- よい影響を与えている取り組みとして、「海を活用した取り組み」(18.2%)、「歴史を活用した取り組み」(13.1%)の順で高い割合となった。その一方で、「特になし」(46.5%)が4割を超えた。
- 良い影響があると感じる理由としては、市のイメージ向上や日常生活の充実につながるといった回答が多くみられた。
- 「特になし」の理由としては、取り組みを知らないという回答が目立った。

問2と同様、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、関係する様々なイベントや活動が中止となり、市民への十分な発信ができなかったことが影響していると推察される。

図表－問3 横須賀全体に、良い影響を与えていると感じる取り組み (N=1454人)



【横須賀全体に良い影響を与えていると感じる理由（主な意見）】

①海を活用した取り組み（221件）

- ・ テレビのドラマ・バラエティなどで、馬堀海岸や観音崎の様子が映ると、海や壁画の絵がキレイだなあ、横須賀は海がいいなあと思います。
- ・ ウインドサーフィン大会の開催や走水海岸の壁画、猿島観光など、横須賀のイメージを充実させていると思います。
- ・ 海洋クラブに自分の子どもがお世話になっており、前にも増して近くにある海が大好きになっている様子を見えています。
- ・ 横須賀のイメージといえば、海にまつわるもの。最近よくドラマで横須賀の海岸通りを目にします。横須賀に住んでいる私達も愛着のある風景がTVに映るとうれしし、それをきっかけに横須賀に遊びに来てもらえれば、良い流れにつながるのではないかと思います。
- ・ 北九州とのフェリー開通を評価します。
- ・ 海の幸、海軍基地や軍港めぐり、猿島等、「海」に由来する魅力が大きいと思います。横須賀のイメージにも、つながっていると感じています。
- ・ ボランティア活動で砂浜でのゴミ拾いがあり、とても素敵だと思いました。
- ・ JAMSTECの拠点があることの認知度が高まっている。
- ・ 海岸道路の歩道などが整備され、人が活動する場、遊ぶ場、くつろぎの場となっている気がする。
- ・ 子どもたちと何回か走水海岸のゴミ拾いボランティアに参加しましたが、とても楽しかったです。

②音楽を活用した取り組み（71件）

- ・ だれでも自由に弾けるピアノがある。
- ・ 「ヨコスカ街なかミュージック」の活動で、ストリートピアノを置いているのが良い。
- ・ 夕方のチャイムは、横須賀市歌を知るいい機会になりました。
- ・ 音楽は人の心を豊かにすると思う。その音楽のイベントが、横須賀中央であるから。
- ・ 今年は新型コロナの影響があり中止となったが、ジャズイベント等で街の盛り上げを行っていて活気がある。地元に住んでいる人も楽しめる。毎年楽しみにしている。
- ・ 老若男女、健常者も障害者も楽しめて、コミュニティが生まれ、関係性が深まる。
- ・ 街中でライブがあるのはとても良い。年齢問わず笑顔になれる。
- ・ 若者が集まる機会になるから。
- ・ 街なかピアノでコミュニケーションの輪が出来ていた。コロナ禍のなか、休止していて寂しい。早く復活してほしい。
- ・ ジャズのヨコスカというフレーズが浸透しているため。

③スポーツを活用した取り組み（60件）

- ・リーフスタジアムやうみかぜ公園のスケボーパークなどで遊ぶ子どもが増えている。
- ・横浜 F・マリノスの練習場・クラブハウスを誘致した事で、より横須賀の認知度が上がったと思うし、誇りに思う。
- ・野球、サッカーが身近に感じられる！
- ・野球（横浜ベイスターズ）の練習場があることやサッカー（横浜 F・マリノス）の練習場が久里浜にできること。
- ・ウインドサーフィンのワールドカップは盛り上がっていると思う。
- ・子ども達がスポーツ教室等で何度も利用させて頂いたため。
- ・ANA ウインドサーフィンワールドカップが開催されたことで、三浦海岸をはじめ横須賀が盛り上がったと思います。
- ・スポーツを始めるきっかけになっているから。
- ・ベイスターズ練習場や夏島グランドの整備など、スポーツに関する取り組みが見える形で進んでいる。
- ・子どもが参加しやすい教室やイベントを開催しているので。
- ・スポーツを通して若者と高齢者が触れ合う機会が増えてると感じる。

④アート・芸術を活用した取り組み（67件）

- ・横須賀美術館は、他の市に住んでいる方にも周知されていて、展示されていた作品の話で盛り上がることもあり、横須賀の良さを広めていると思います。来場者が増えれば、活性化にもつながります。
- ・横須賀美術館は、海に面していて、とても良いところだと思います。子どもの作品が展示される機会もあり、アートが身近に感じられて良いです。
- ・横須賀美術館に学生の作品などを展示したり、子どもたちの鑑賞の機会を設けたり、良いと思います。
- ・平成町の壁に描かれた絵がかわいいです。
- ・猿島×アートのイベントに行ったことがあり、その時に良い影響を与えているなと感じました。
- ・横須賀美術館は素晴らしいです。アートを通して芸術を鑑賞しています。静かで心もなごみます。海に面して食事を楽しめる趣向も良かったと思います。
- ・谷戸の利用が良い。
- ・アニメの影響で観光客が増えた時期もあったと思う。
- ・芸術劇場が数多くのイベントを企画しており、周辺地域の住民にとってのプラスになっていると思う

⑤歴史を活用した取り組み（149件）

- ・浦賀の歴史を小学6年生に伝えるのは、地元の良さを知るのに良いことだなあと感じました。
- ・横須賀といえば海軍・黒船で、それをもとにした商品が多いと感じるから。
- ・広報などで歴史関係の催し物がたくさんあって、私もやってみたいと思う。
- ・時々メディアでペリー来航やヴェルニー公園、横須賀製鉄所などを見かけた時に良いイメージが浮かぶこと。
- ・横須賀市は歴史の宝庫。
- ・浦賀ドッグなど中学の時に内容にふれることができて、横須賀に誇りをもてました。神社も沢山あって、もっと色んな人に知ってほしいと思いました。
- ・横須賀市の特有の歴史が、観光客を集めたりしていると思う。
- ・横須賀市の歴史を感じさせるものがあると、市内に住む私達は改めて親しみや魅力、馴染みを感じるから。
- ・歴史遺産が豊富なので、その環境を生かして他市との差別化ができる。近代史でも軍港としてのアピールが出来る。
- ・歴史が深く、全国でも知られているため、市の盛り上げに一役かっていると感じたため。

⑥地域のつながりを深めるための取り組み（53件）

- ・防犯パトロール活動は、地域の人々のつながりを強めている。
- ・地域のつながりを深めると、人が戻って住みやすい市になると思う。
- ・私は地域の仲間と卓球を楽しんでいますが、なかなか場所が取れない。コミセンなら申し込み制で場所が取れるのでありがたいです。
- ・自治会活動、社会福祉協議会への参加、シルバー人材によって地域のつながりを深めている。
- ・商店街、地域、自治体を含めた取り組みやコミュニケーションがあり、周りと活動を共にしている実感があります。
- ・高齢者や助けを必要とする人をお互いに顔を少しでも知って、地域で支え合えるようになればいいと思います。
- ・子どもが喜ぶイベントが多く、社交的に育っているから。
- ・地域が活性化すれば、おのずと市が活性化するから。

⑦特になし（336件）

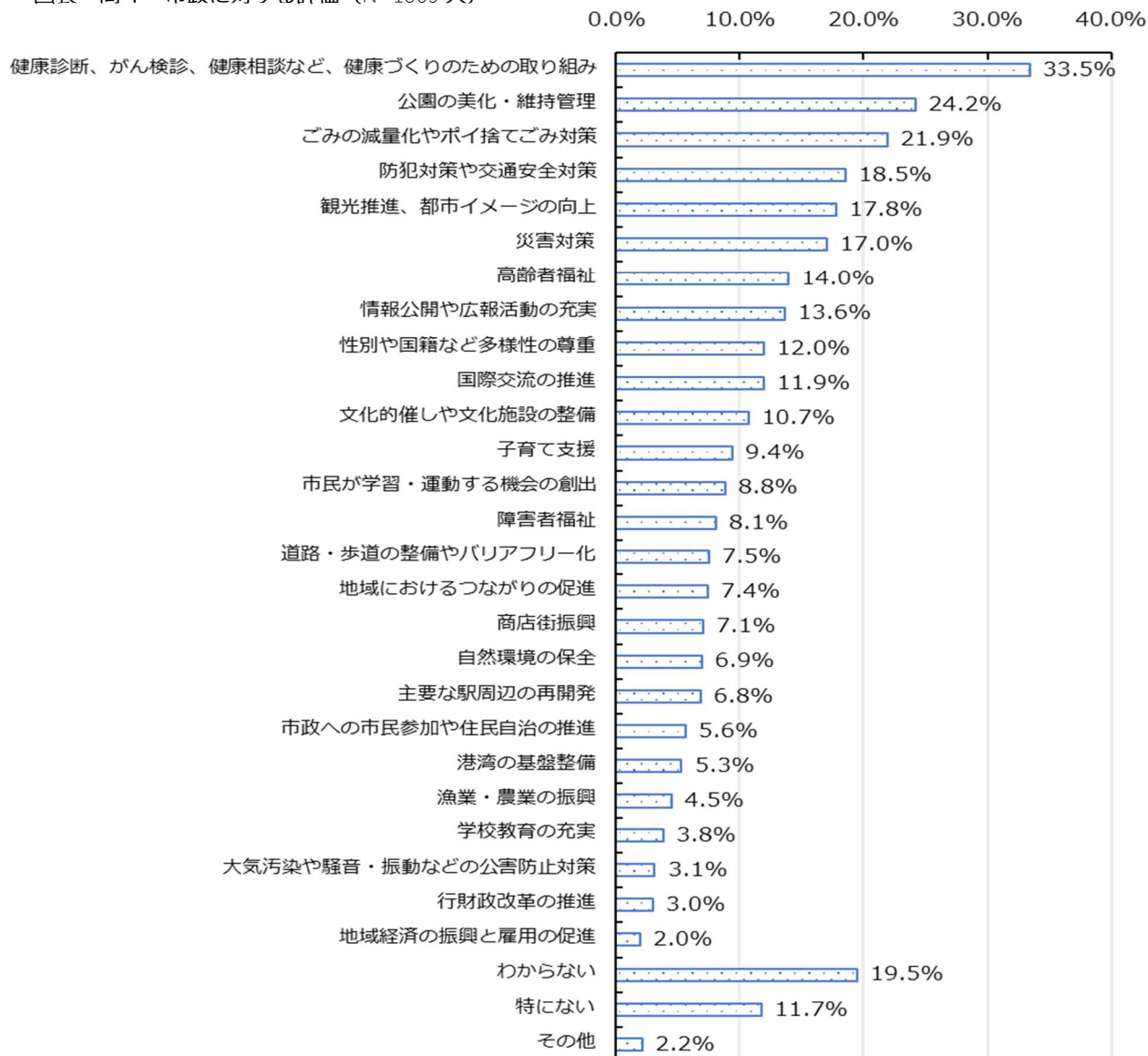
- ・どのような取り組みをしているのかわからない。
- ・取り組みが多すぎて何だかわからない。
- ・仕事が忙しく、横須賀市がどのような取り組みをしているか、知らないで分からない。
- ・過去にあったのかもしれないが、コロナで色々なものが中止になってしまい、特に思い出せない。

Ⅱ．市政に対する評価と要望

問4 あなたが、横須賀市の取り組みの中で、十分に行われていると感じるものはどれですか。(〇はいくつでも)

- 「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための取り組み」(33.5%)が最も多く、次いで「公園の美化・維持管理」(24.2%)、「ごみの減量化やポイ捨てごみ対策」(21.9%)など、日常生活や地域に密着した項目が多く挙げられた。
- 一方で、これまでの調査の中でも市民の関心が高い「地域経済の振興と雇用の促進」が、選択項目のなかで最も低い値であったことについては、真摯に受け止め、今後の施策展開に生かすとともに、市が行っている取り組みについて、市民の皆様に伝え、理解していただくためのPRをしっかりと行っていく必要がある。

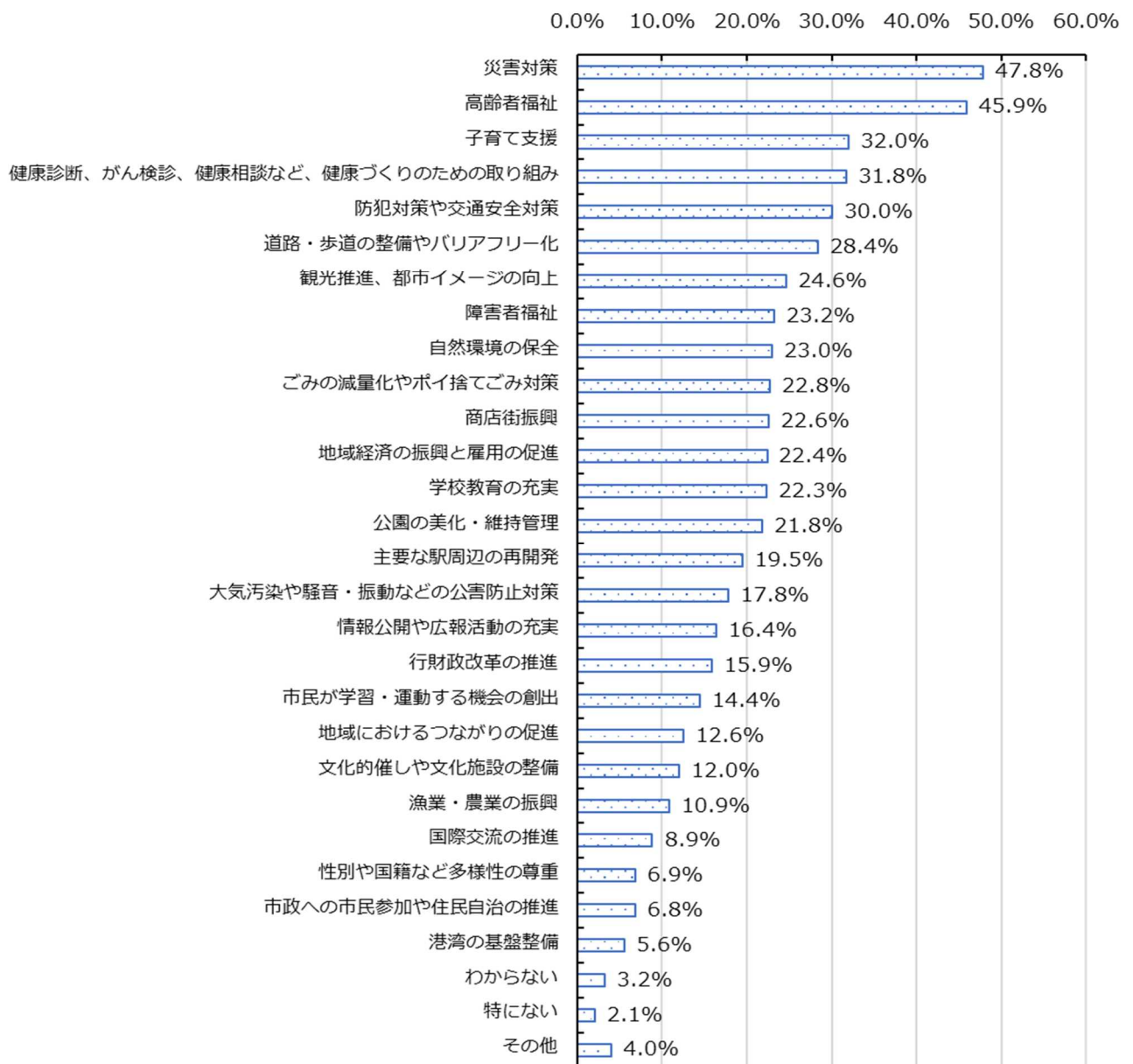
図表－問4 市政に対する評価 (N=1569人)



問5 あなたが、横須賀市の取り組みの中で、今後特に力を入れてほしいと感じるものはどれですか。(〇はいくつでも)

- 「災害対策」(47.8%)、「高齢者福祉」(45.9%)、「子育て支援」(32.0%)、「健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための取り組み」(31.8%)といった、日常生活を安心・安全に過ごすための取り組みが多く選択された。
- 世界を一変させた新型コロナウイルス感染症、近い将来の発生が予測されている大規模地震、高齢化のさらなる進展など、個人では対応しきれない事象に対する不安の表れが、これらの選択の多さに影響しているものと考えられる。

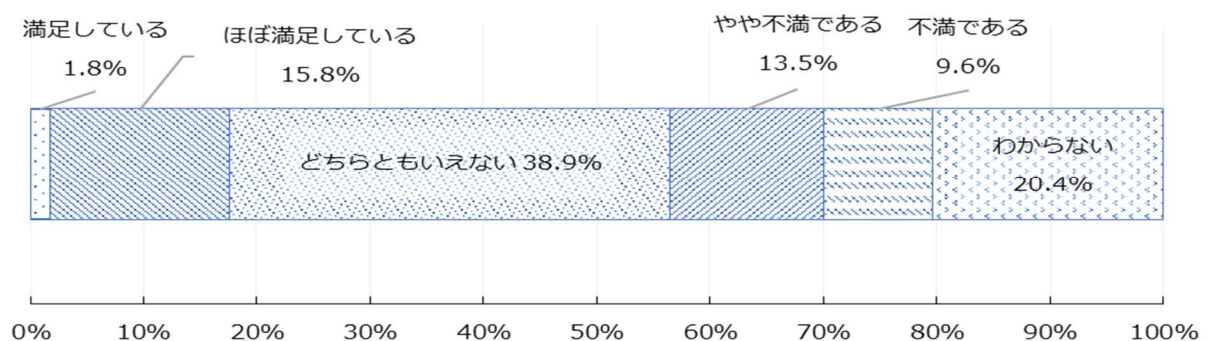
図表－問5 市政に対する要望 (N=1581人)



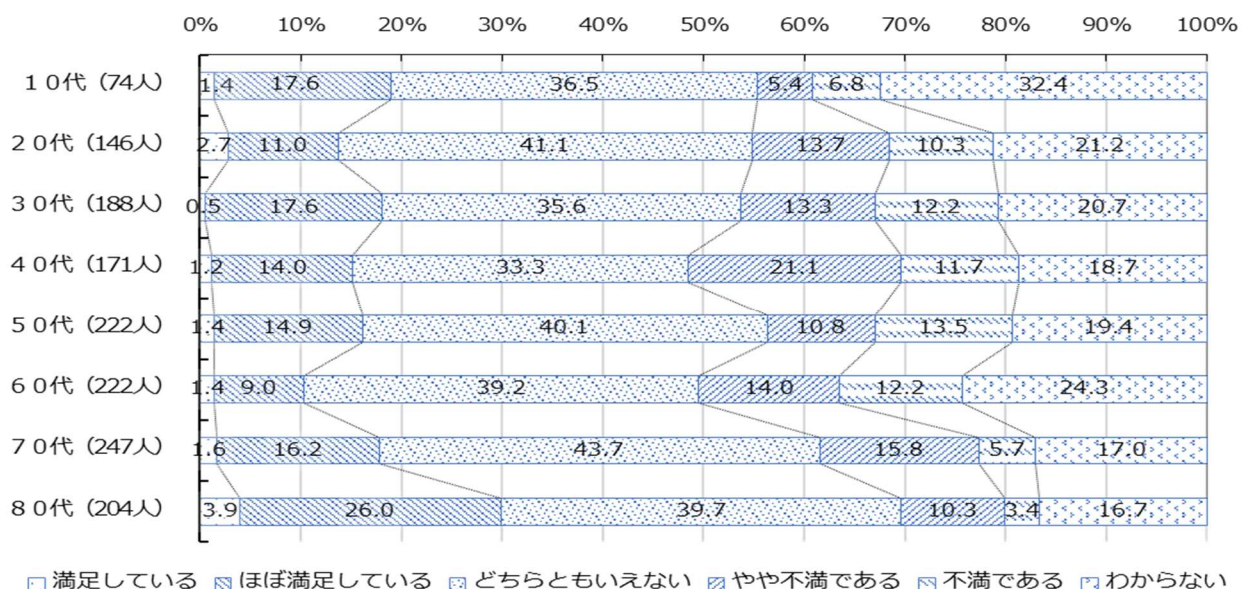
問6 あなたは、横須賀市が進めている取り組みを総合的に見たとき、どの程度満足していますか。(〇は1つ)

- 『満足(計)』⁴と『不満(計)』⁵がそれぞれ2割程度で、「どちらともいえない」(38.9%)が4割程度となった。この「どちらともいえない」の選択の多さは、大きな判断材料がなく、可もなく不可もないといった感覚の表れと推察される。
- 年代別にみると、『満足(計)』が80代(29.9%)で3割近く、最も多い。
- 一方で、『不満(計)』は、40代(32.8%)が3割を超え多くなっている。
子育てや家族の介護、経済面での不安、ワークライフバランスがとれないことなど、日常生活における不安や不便さに対して、現在の行政サービスで十分にケアされていないと感じているものと推測される。

図表-問6-① 市政に対する満足度 (N=1484人)



図表-問6-② 市政に対する満足度 (年代別)



⁴ 「満足している」と「ほぼ満足している」の合計

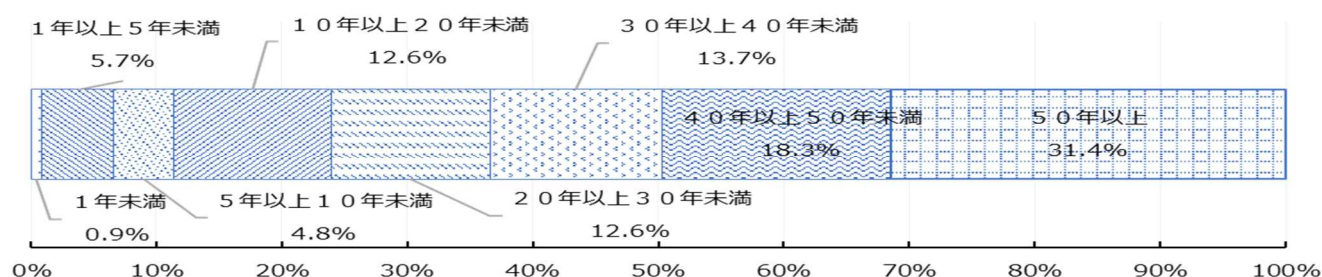
⁵ 「不満である」と「やや不満である」の合計

Ⅲ. 定住意識について

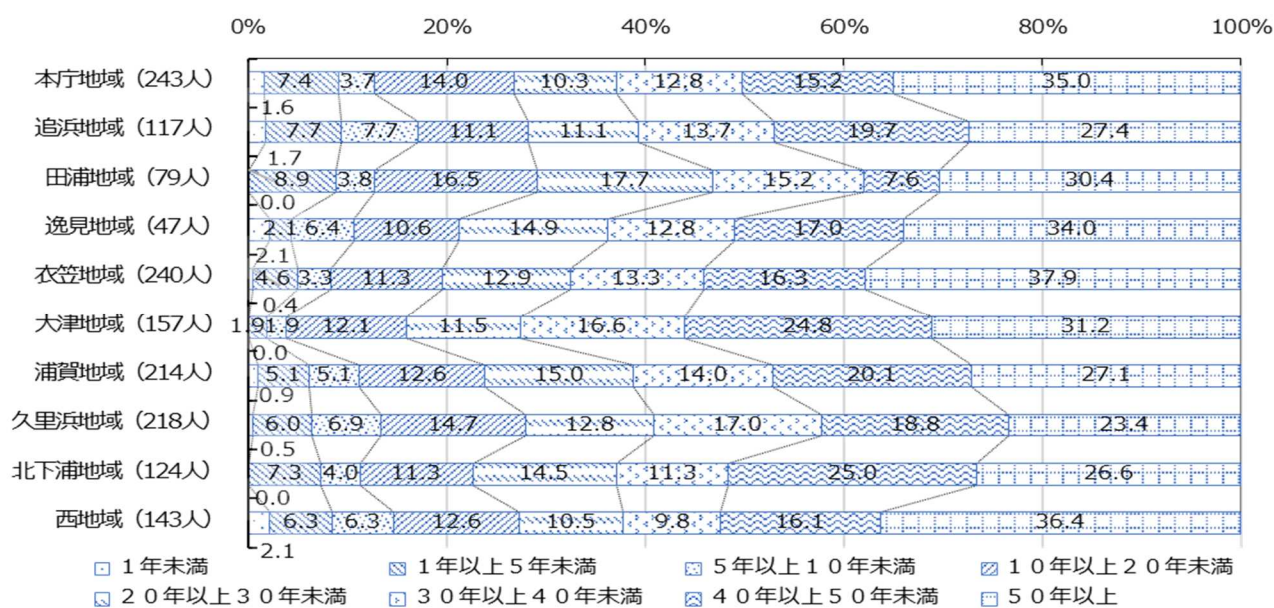
問7 あなたは、横須賀市に通算でどのくらいの期間住んでいますか。(〇は1つ)

- 「50年以上」(31.4%)が3割以上と回答項目の中で最も高い割合となった。
この点について、本市では1960年代～1970年代、今から約50年前に市内各地域で大量の住宅供給による人口流入があったこと、また半島という地勢的な特性、農漁業が盛なことなどが、人口移動、それに伴う定住期間に影響していると考えられる。
- 地域別でみると、追浜地域で10年未満の割合⁶が最も多い。当該地域は、横浜市と隣接しており、市内でも都心や横浜などへのアクセスが良く、人口移動が比較的活発な地域であること、また近年、大規模なマンション開発が行われたことなどが影響していると考えられる。

図表－問7－① 居住年数 (N=1597人)



図表－問7－② 居住年数 (地域別)

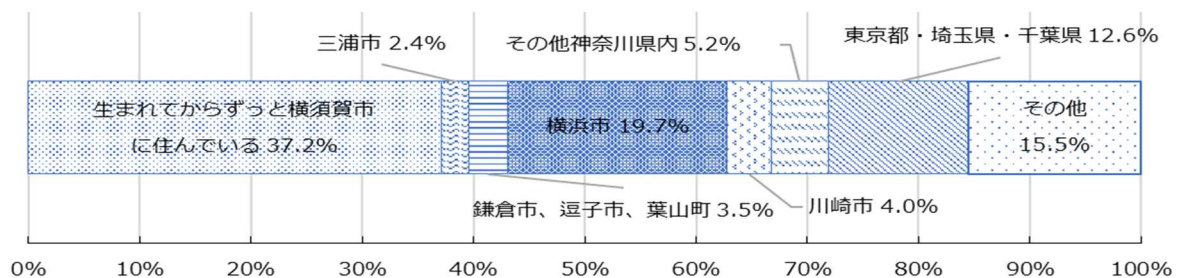


⁶ 追浜地域の10年未満の割合は、1年未満(1.7%)と1年以上5年未満(7.7%)と5年以上10年未満(7.7%)を合わせた17.1%

問8 横須賀市に引っ越してくる前は、どちらにお住まいでしたか。(〇は1つ)

- 「生まれてからずっと横須賀市に住んでいる」(37.2%) が最も多く4割近い。次いで「横浜市」(19.7%) となっている。また、近隣以外に、東京都などの首都圏、それ以外のその他地域からの流入も一定の割合でみられる。これについては、市内にある自衛隊施設や防衛大学校などが影響しているものと考えられる。

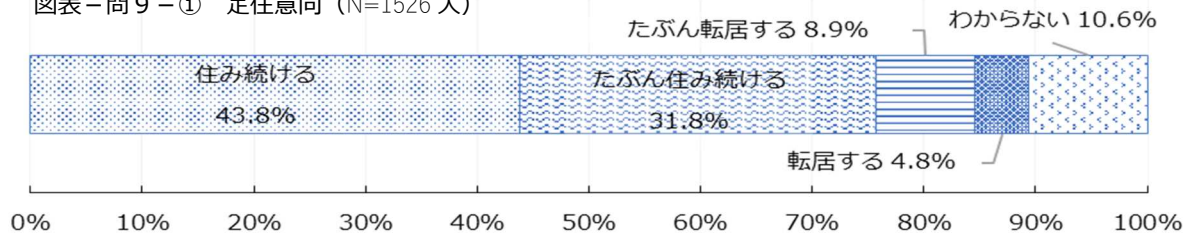
図表－問8 前住地 (N=1568人)



問9 あなたは、これからもずっと今のお住まいに住み続けるお気持ちですか。(〇は1つ)

- 『住み続ける (計)』⁷ (75.6%) が、約8割に上る⁸。
- 年代別では、年齢が高くなるにつれて、『住み続ける (計)』の回答割合が多い。10代～20代の『転居する (計)』⁹が4割を超え高いが、年齢的に実家暮らしであることが推測され、進学や就職に伴う転居を想定していることが考えられる。
- 地域別にみると、『住み続ける (計)』は、大津地区 (80.6%) で8割を超え最も多く、他の地域より定住意向が強い結果となった。これは、当該地域が、京急の2駅2路線利用可能であること、比較的平坦な地形であることなど、生活利便性の良さがその要因の1つとして考えられる。

図表－問9－① 定住意向 (N=1526人)

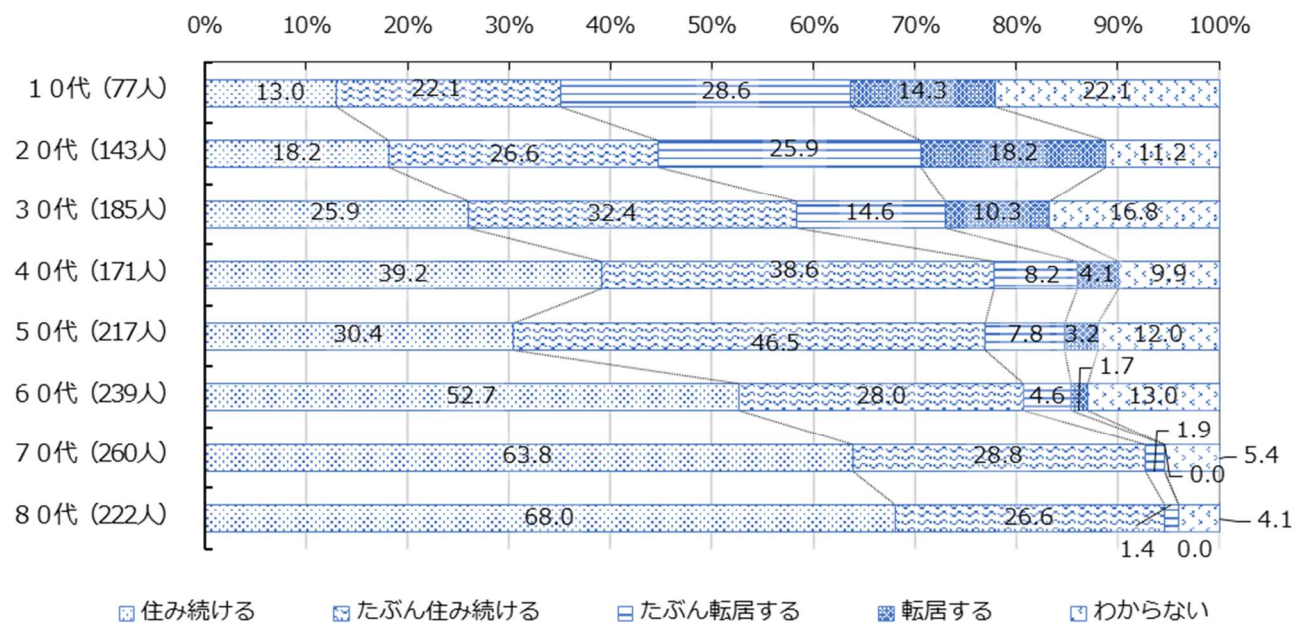


⁷ 「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計

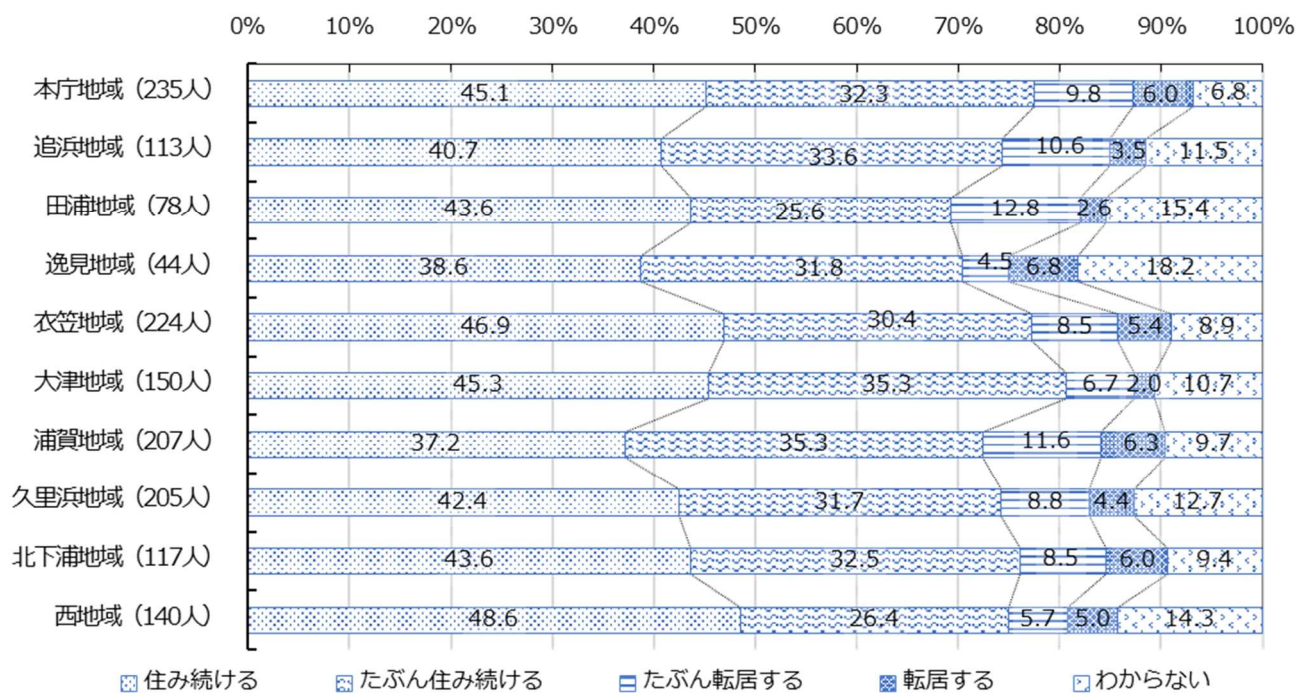
⁸ 類似の調査「令和2年度横浜市民意識調査」によると、横浜市の定住意向は、『住み続ける (計)』(「住み続ける」と「たぶん住み続ける」の合計)は69.3%、『転居する (計)』(「転居する」と「たぶん転居する」の合計)は17.6%、「わからない」は11.3%、無回答は1.8%となっている。

⁹ 「転居する」と「たぶん転居する」の合計

図表－問9－② 定住意向（年代別）



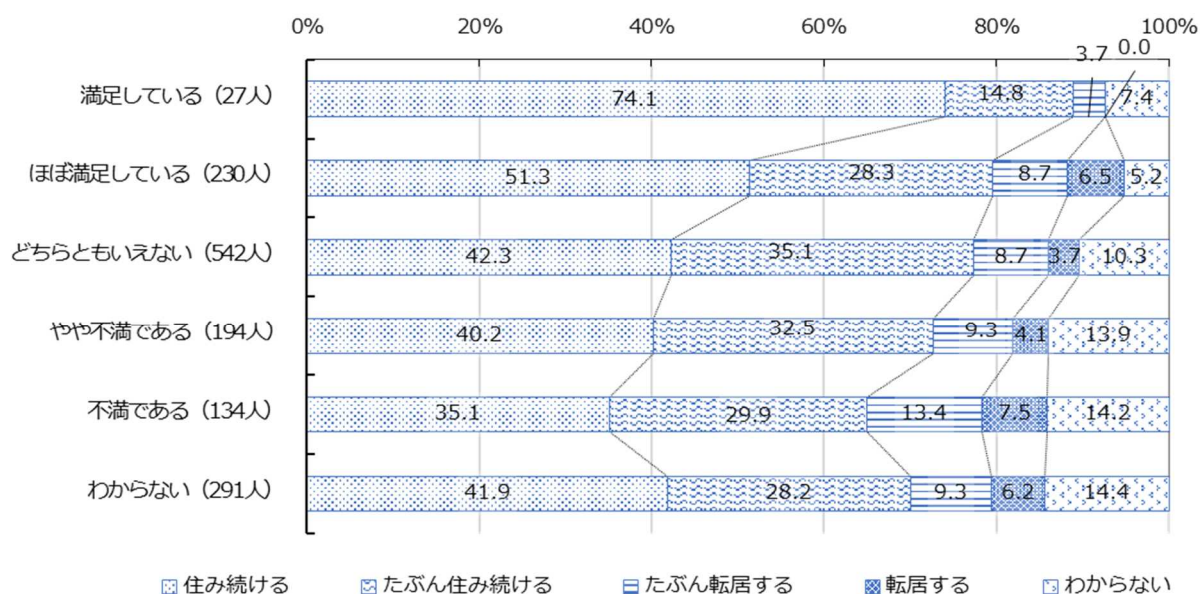
図表－問9－③ 定住意向（地域別）



【参考】

- 市政への満足度が高い人は、定住意向が高く、満足度が低いと定住意向も低くなる傾向がみられる。定住意向に関わる要因は様々だが、今回の調査結果では、市政への満足度と一定の関係性がみられたことから、市民の利益を最優先に考え、ニーズを正しく捉え、タイムリーな事業展開が重要となる。

図表－問9－④ 定住意向（市政への満足度別）

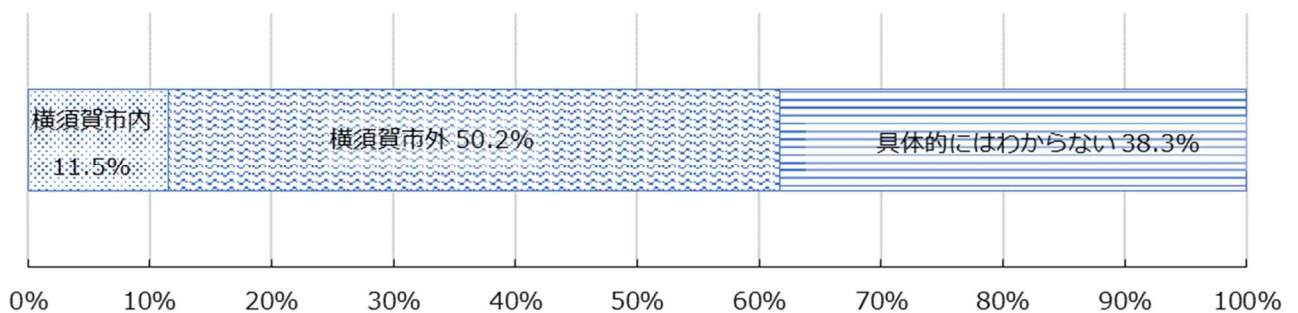


【問9で、「3、4」を選んだ方に】

問9-1 次の引っ越し先としては、どちらを希望されますか。(〇は1つ)

- 今の住所から「転居する」「たぶん転居する」を選択した回答者（209人）の、転居先の希望をみると、「横須賀市外」（50.2%）が約5割となった。
- この「横須賀市外」を選んだ回答者の、具体的な転居先の希望をみると、横浜市（28件）が最も多く、次いで、その他神奈川県内（17件）、東京都（16件）となった。

図表-問9-1-① 希望する転居先（N=209人）



図表-問9-1-② 具体的な転居先（N=93人）

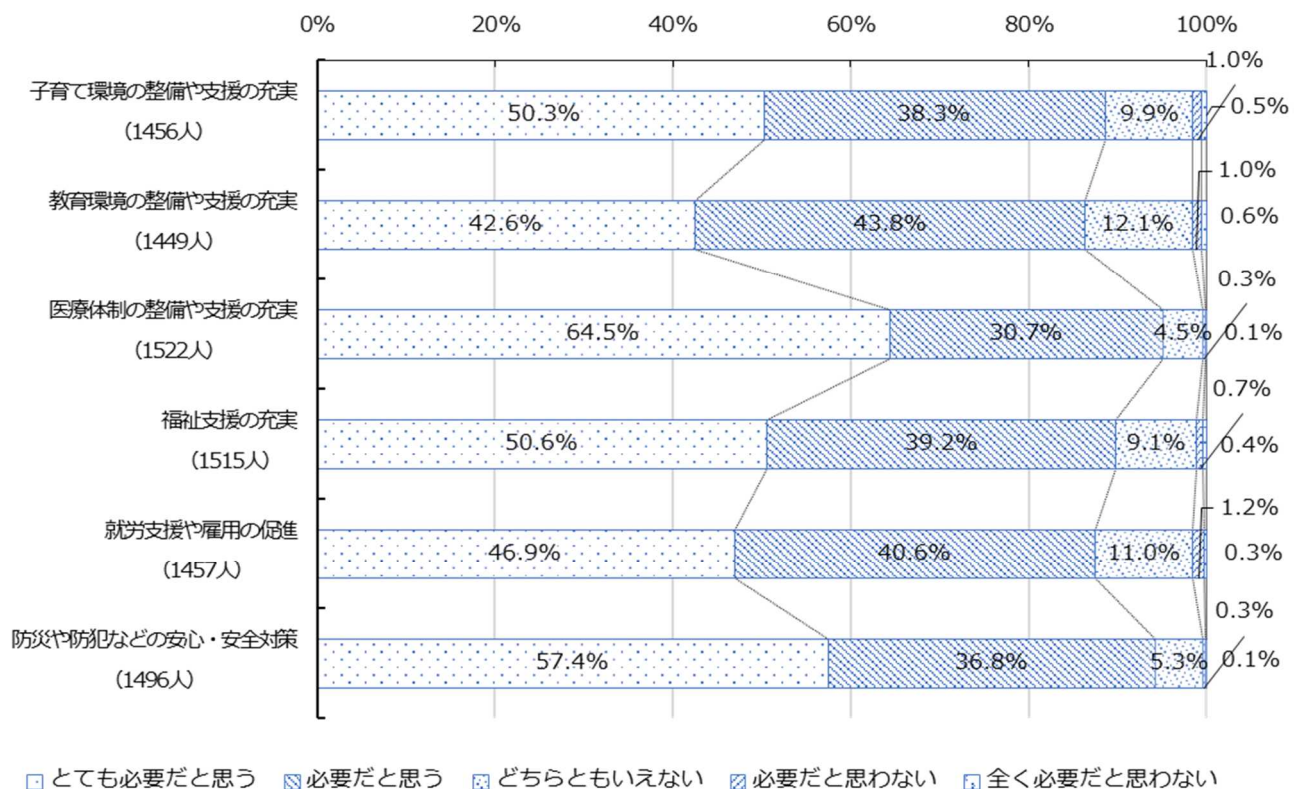
具体的な転居先の希望	件
横浜市	28
その他神奈川県内	17
東京都	16
埼玉県	4
その他	38
計	103

※複数回答が見られたため、Nと計が異なる。

問 10 次の項目について、定住意識の向上には、どの程度必要だと思いますか。
当てはまるものをお選びください。(〇はそれぞれ1つ)

- 今回提示した6つの項目すべてで、『必要だと思う(計)』¹⁰とする回答が9割近くに上った。特に、『医療体制の整備や支援の充実』や『防災や防犯などの安心・安全対策』の必要性が強く感じられている。現在の新型コロナウイルスの感染拡大、地震や台風、豪雨などの自然災害への不安が、安心・安全への意識の高さに影響していると推測される。
 - 年代別では、20代～30代で、特に『子育て環境の整備や支援の充実』、『教育環境の整備や支援の充実』、『就労支援や雇用の促進』が多く選択された。この年代が直面する課題が、必要性の高さとして回答に反映されていると考えられる。
- 安心・安全という暮らしのベースを整えながら、これらの取り組みに力を注ぐことが、若年層、特に子育て世代の定住につながると思われる。

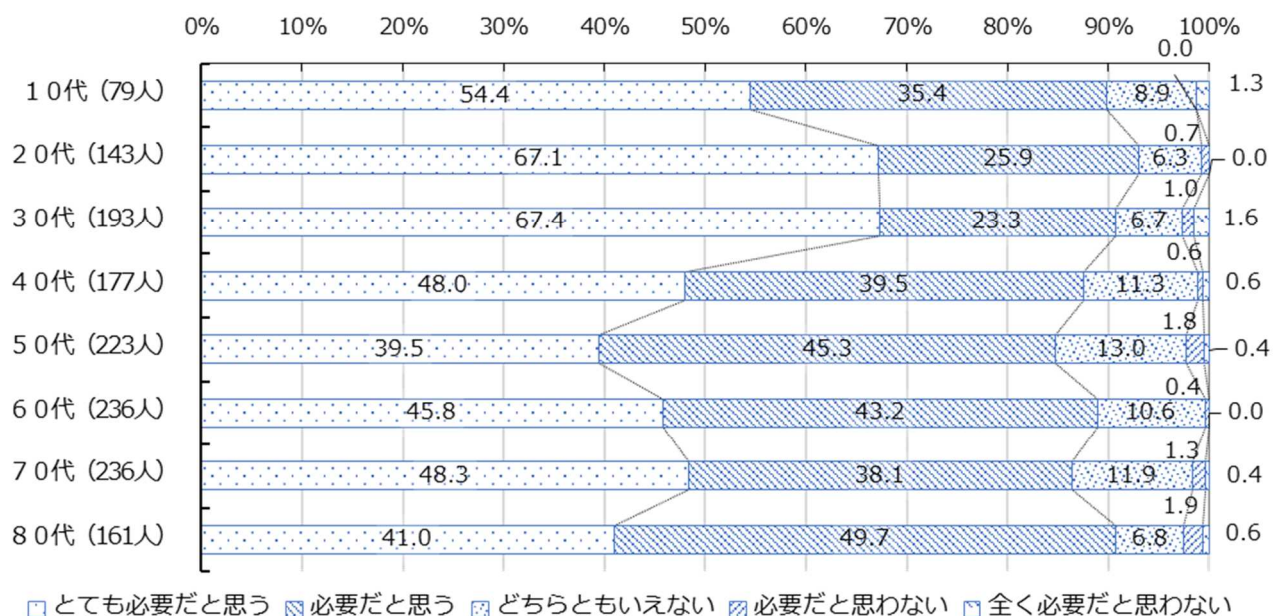
図表－問10－① 定住意識の向上に関わる取り組みの必要度



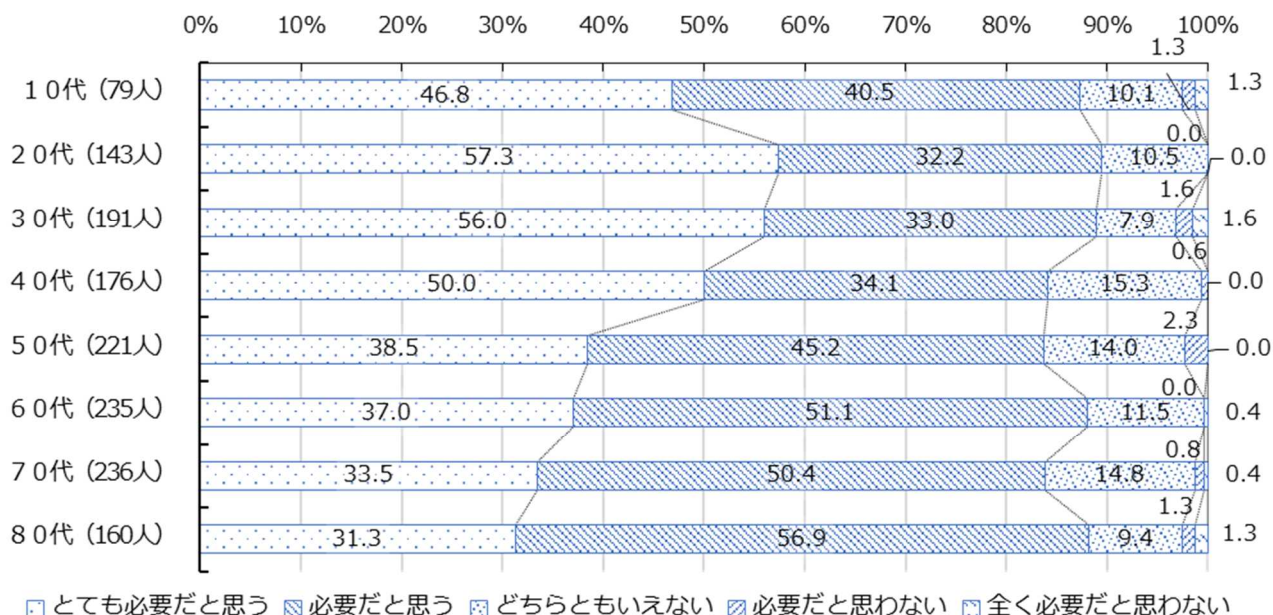
¹⁰ 「とても必要だと思う」と「必要だと思う」の合計

図表－問10－② 定住意識の向上に関わる取り組みの必要度（年代別）

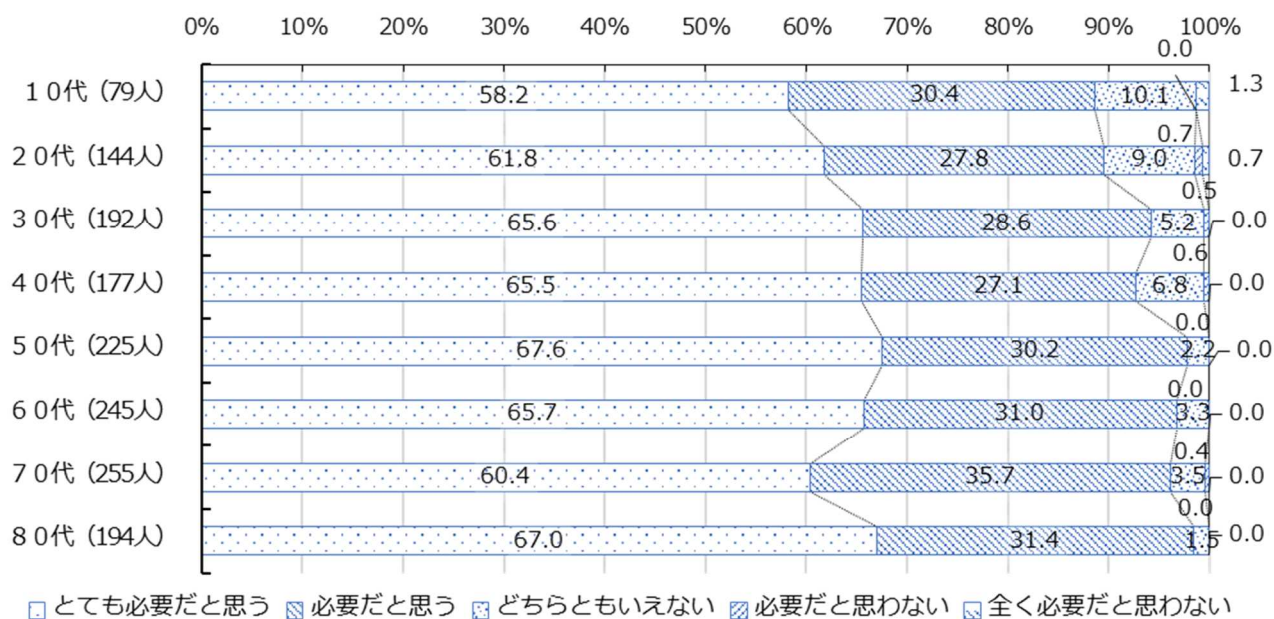
①子育て環境の整備や支援の充実



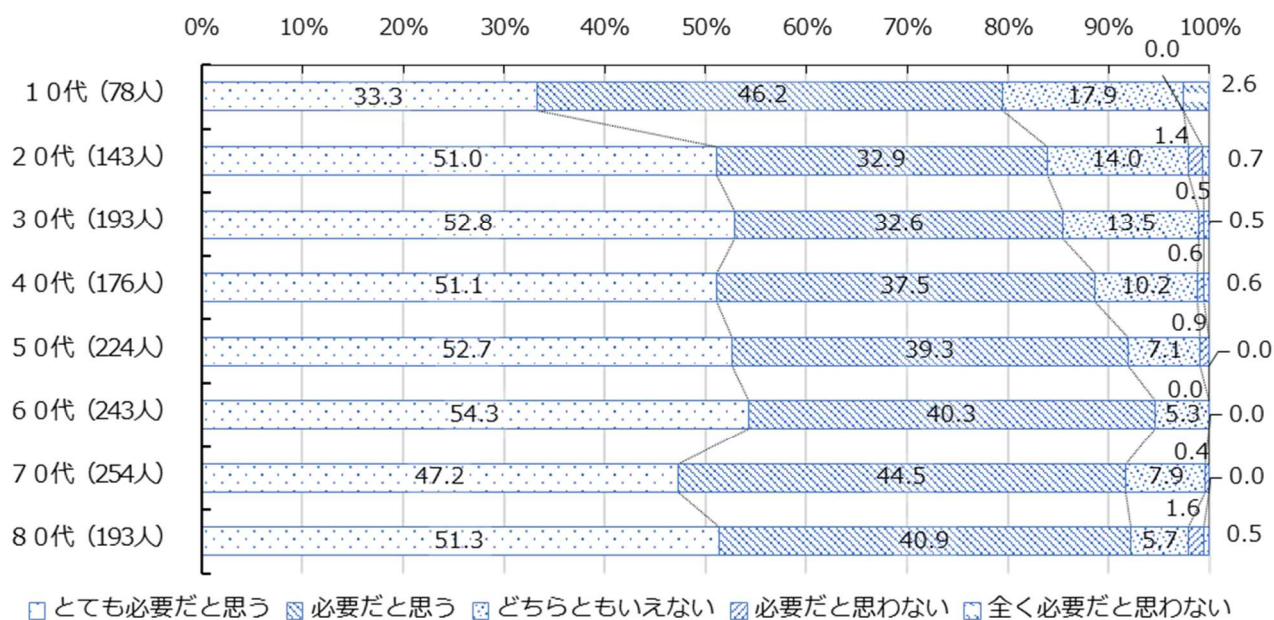
②教育環境の整備や支援の充実



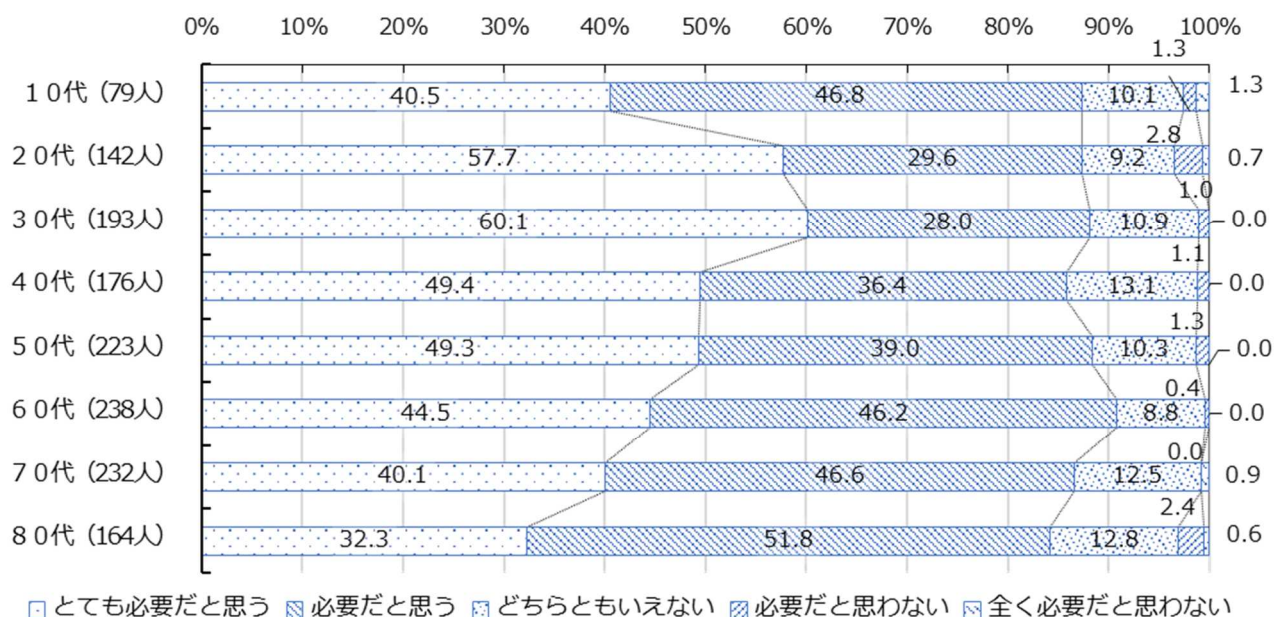
③医療体制の整備や支援の充実



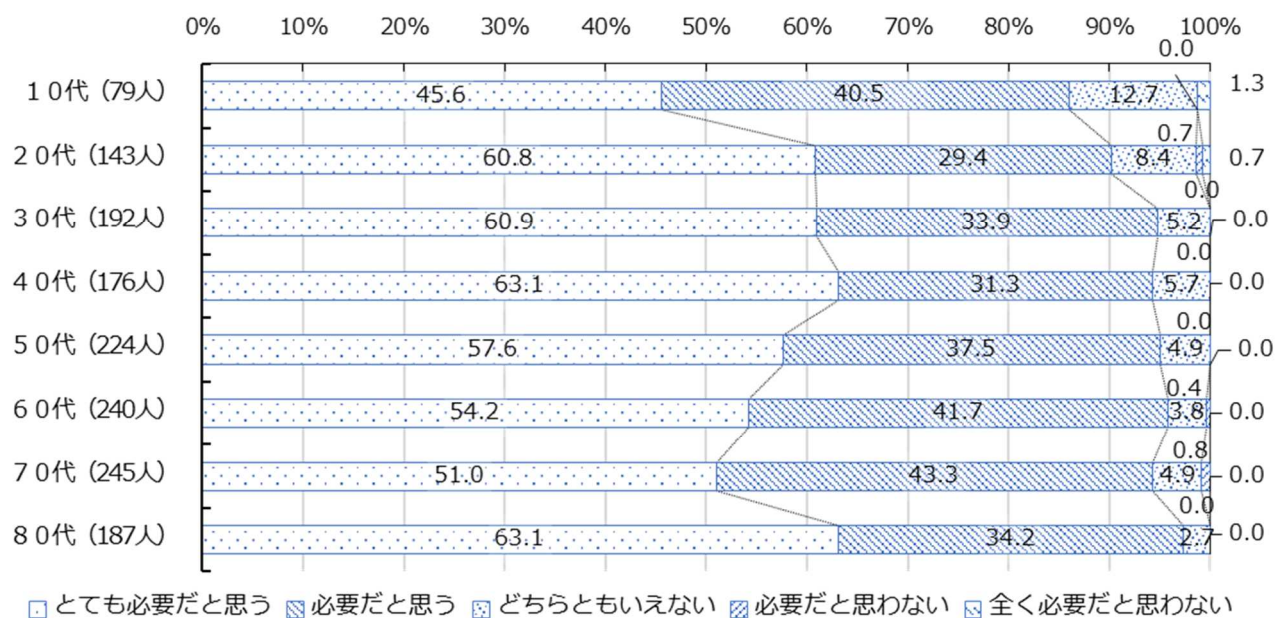
④福祉支援の充実



⑤就労支援や雇用の促進



⑥防災や防犯などの安心・安全対策

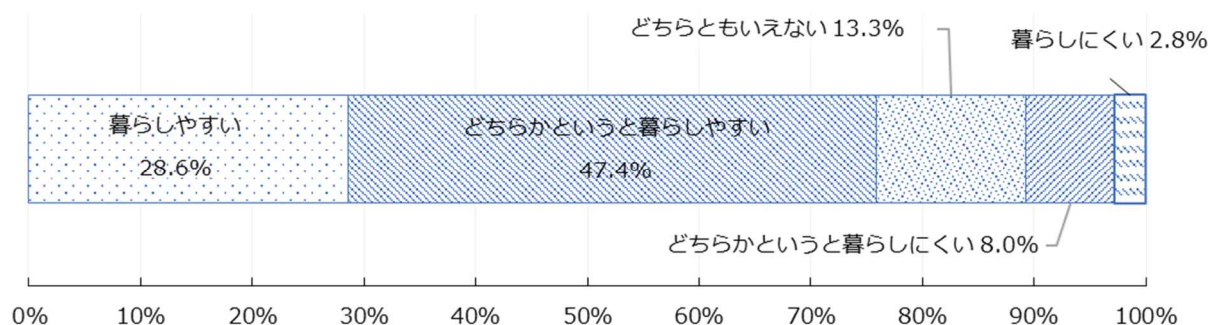


IV. 暮らしやすさについて

問 1 1 今のお住まいや周辺の環境をどのように感じていますか。(〇は1つ)

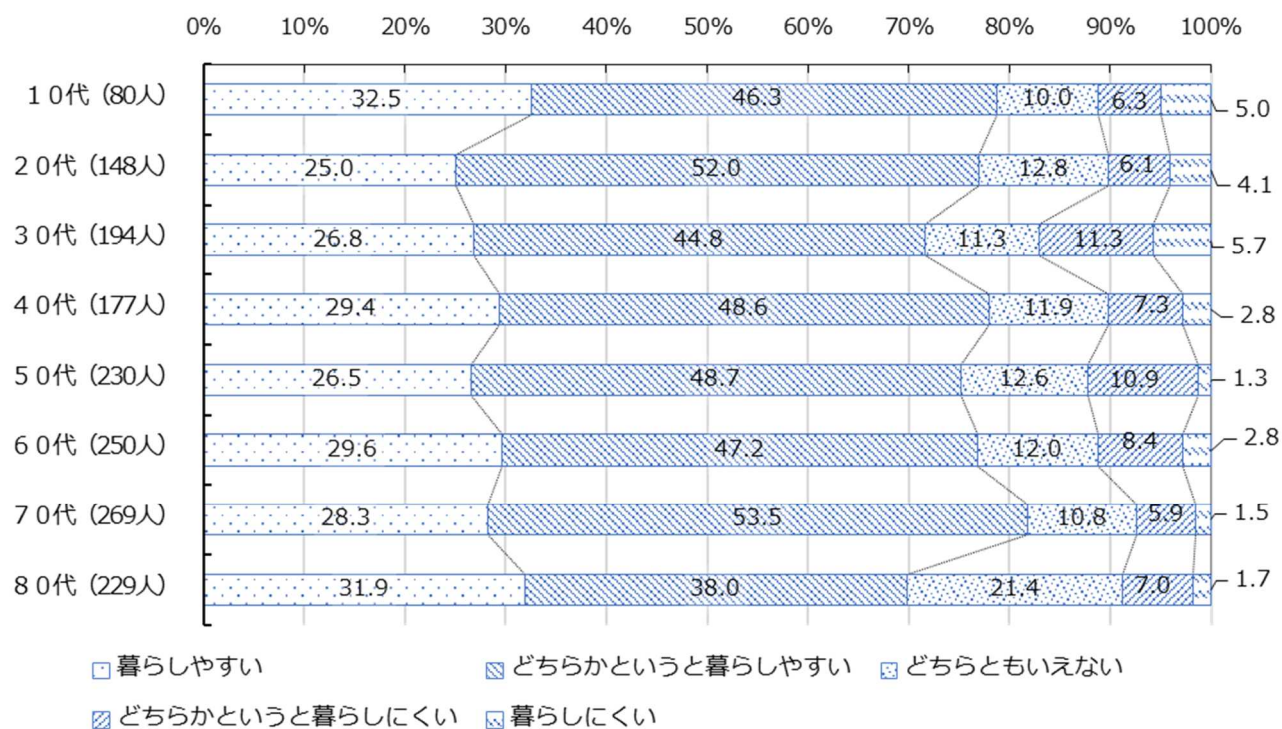
- ・ 『暮らしやすい(計)』¹¹ (76.0%) とする回答が8割近くに上る。
- ・ 年代別にみると、70代(81.8%)で8割を超え、最も高い。一方で、80代(69.9%)が各年代のなかで、最も低い結果となった。このことについて、加齢に伴う日常生活での小さな暮らしにくさの増加が、その要因として考えられる。
- ・ 地域別でみると、『暮らしやすい(計)』は、大津地域(82.8%)が最も高く、西地域(63.3%)で最も低い。その差は19.5ポイントとなり、最寄りの鉄道駅までの所要時間や、起伏の有無といった地形的な特徴などの違いに要因があると思われる。
- ・ 今後、さらなる高齢化の進展が予測されるなかで、道路、施設等のバリアフリー化やオンデマンドの移動サービスの普及など、将来に向けた検討を進める必要がある。

図表－問 1 1－① 暮らしやすさ (N=1589人)

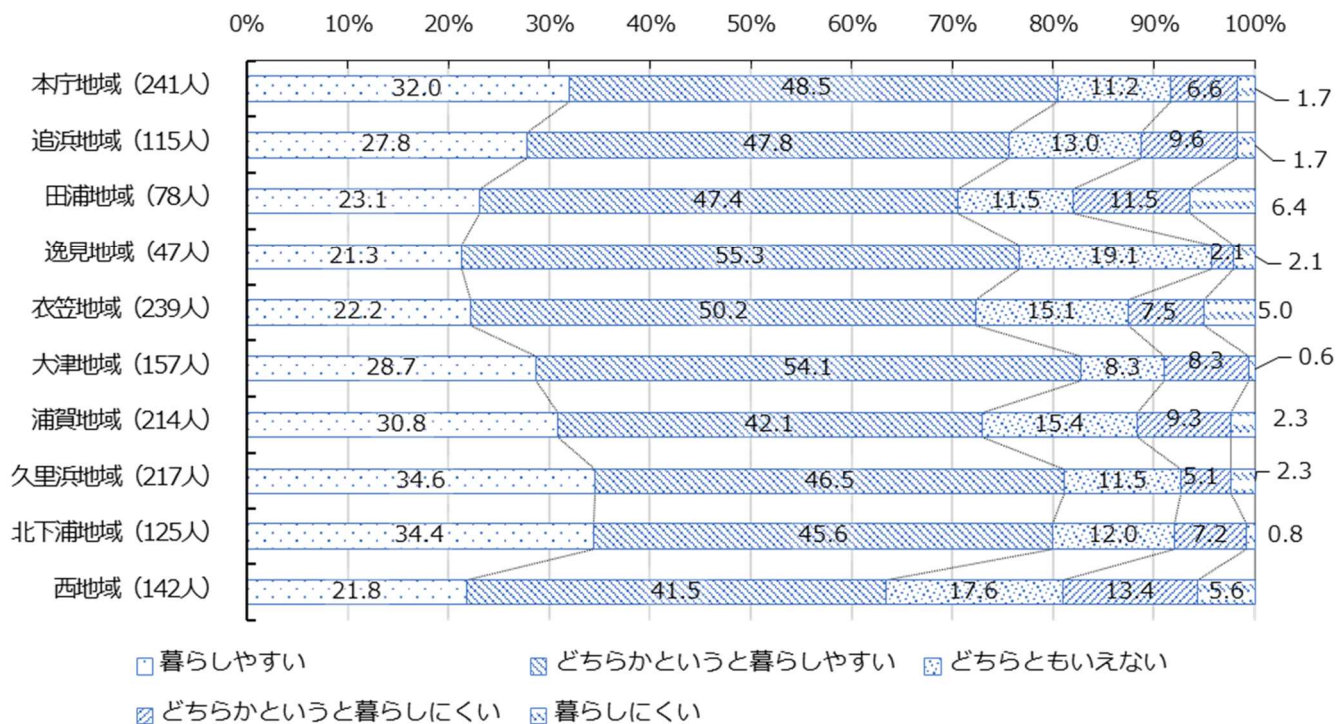


¹¹ 「暮らしやすい」と「どちらかというと暮らしやすい」の合計

図表－問 1 1－② 暮らしやすさ（年代別）



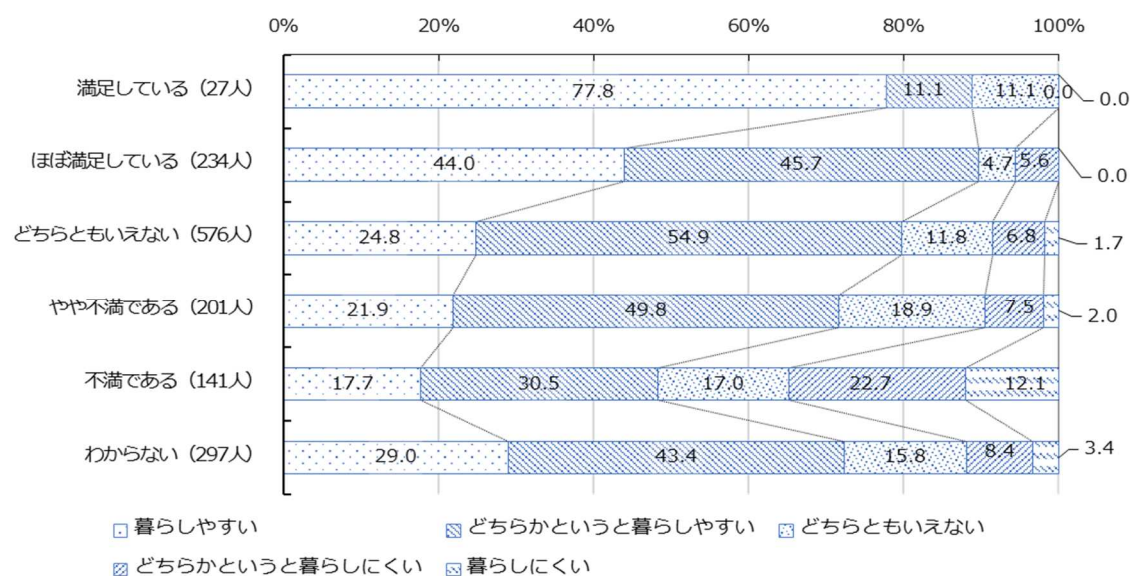
図表－問 1 1－③ 暮らしやすさ（地域別）



【参考】

- 市政への満足度が高いと『暮らしやすい（計）』が高く、満足度が低いと『暮らしやすい（計）』が低くなり、『暮らしにくい（計）』¹²の割合が増える。
- 暮らしやすさにつながる要因は多様だが、今回の調査結果から、市政への満足度と一定の関係性がみられた。常に、市民の視点に立って施策を考え、サービスを提供し、満足度を高めることで、暮らしやすさの向上を図っていく必要がある。

図表－問１１－④ 暮らしやすさ（市政への満足度別）

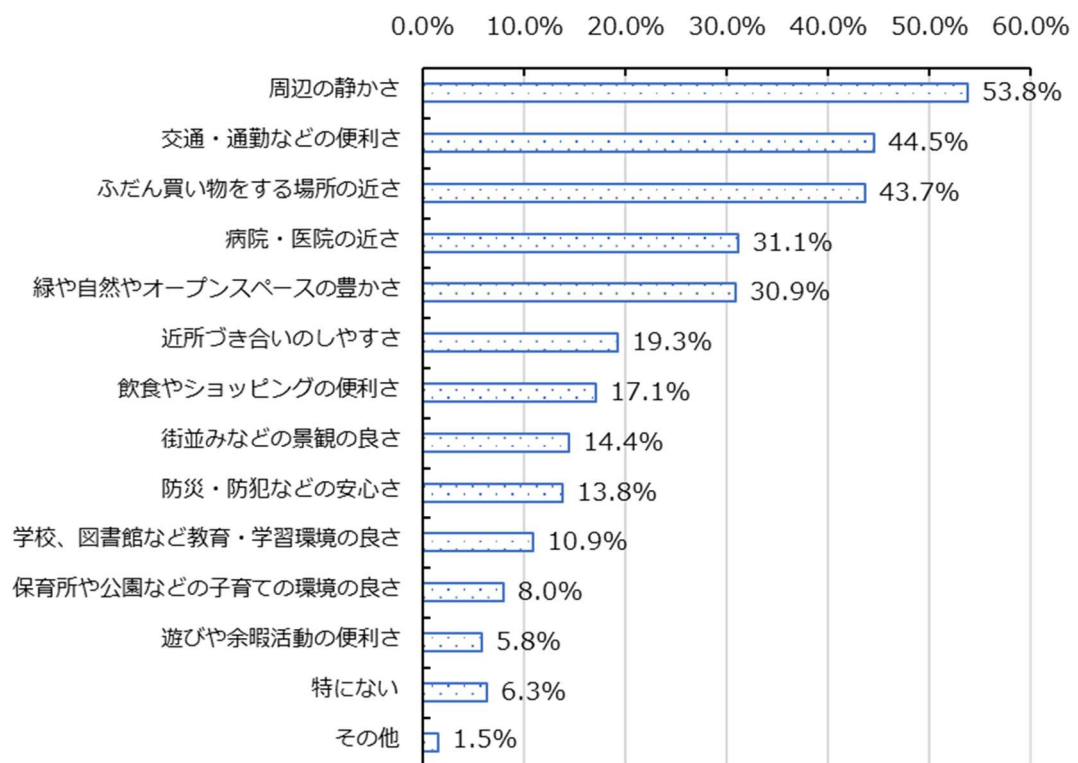


¹² 「暮らしにくい」と「どちらかという暮らしにくい」の合計

問 1 2 今のお住まいの周辺の環境で、暮らしやすいと感じているのはどのような点ですか。(〇はいくつでも)

- 「周辺の静かさ」(53.8%) が 5 割を超え最も多く、次いで「交通・通勤などの便利さ」(44.5%)、「ふだん買い物をする場所の近さ」(43.7%) の順となっている。
- 年代別でみると、どの年代も「周辺の静かさ」、「交通・通勤などの便利さ」や「ふだん買い物をする場所の近さ」が多く選択されている。
このことから、年齢を問わず、一定の利便性を感じつつも、喧噪から離れた落ち着いた暮らしのある横須賀の暮らしを評価している様子がうかがえる。
- 地域別でみると、本庁地域では、「交通・通勤などの便利さ」、「病院・医院の近さ」、「ふだん買い物をする場所の近さ」が上位 3 つとなり、他の地域に比べて、日々の生活利便性に暮らしやすさを感じている傾向が強く表れていると考えられる。

図表－問 1 2－① 暮らしやすい環境 (N=1579 人)



図表－問１２－② 暮らしやすい環境（年代別）

	周辺の静かさ	緑や自然やオープンスペースの豊かさ	街並みなどの景観の良さ	子育ての環境の良さ	学校、学習環境の良さ・教育・	近所づき合いのしやすさ	交通・通勤などの利便さ	病院・医院の近さ	ふだん買い物をする場所の近さ	飲食やショッピングの利便さ	遊びや余暇活動の利便さ	防災・防犯などの安心さ	その他	特にない
10代（79人）	36.7	24.1	15.2	5.1	21.5	12.7	41.8	11.4	35.4	21.5	11.4	11.4	1.3	11.4
20代（147人）	42.2	27.9	18.4	6.1	11.6	12.2	41.5	19.0	43.5	27.9	10.2	5.4	1.4	9.5
30代（192人）	56.8	31.8	13.0	10.4	10.9	12.5	37.5	18.2	42.7	17.7	3.1	9.9	0.0	8.3
40代（178人）	56.7	33.1	15.2	12.4	12.4	20.8	42.7	22.5	37.6	14.6	7.9	12.4	0.6	6.2
50代（228人）	51.8	31.1	18.0	8.3	11.4	14.0	44.3	25.0	45.2	16.2	5.3	9.2	3.1	7.0
60代（251人）	55.0	34.3	12.0	6.0	7.2	15.5	49.8	35.1	45.8	12.4	5.2	13.1	1.2	6.0
70代（267人）	56.9	27.7	14.6	8.6	10.9	27.0	50.6	46.8	48.7	16.9	5.2	21.3	1.9	4.1
80代（226人）	60.2	32.3	11.1	6.2	9.3	30.5	42.5	46.5	42.0	16.8	3.5	20.8	1.8	2.7

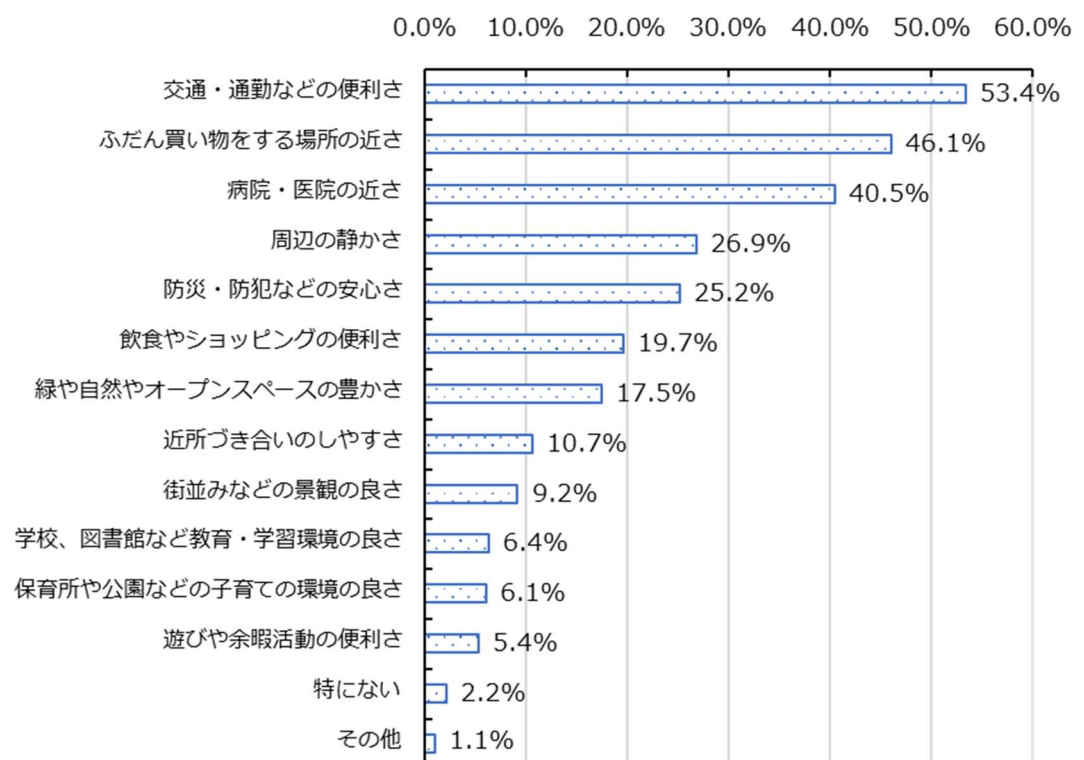
図表－問１２－③ 暮らしやすい環境（地域別）

	周辺の静かさ	緑や自然やオープンスペースの豊かさ	街並みなどの景観の良さ	子育ての環境の良さ	学校、学習環境の良さ・教育・	近所づき合いのしやすさ	交通・通勤などの利便さ	病院・医院の近さ	ふだん買い物をする場所の近さ	飲食やショッピングの利便さ	遊びや余暇活動の利便さ	防災・防犯などの安心さ	その他	特にない
本庁地域（241人）	45.2	23.7	15.8	5.4	9.1	12.9	62.2	45.6	55.6	32.4	11.2	11.2	1.7	3.3
追浜地域（115人）	53.0	38.3	19.1	9.6	16.5	16.5	40.0	35.7	34.8	14.8	4.3	13.0	2.6	6.1
田浦地域（79人）	62.0	24.1	2.5	3.8	16.5	19.0	53.2	19.0	12.7	2.5	2.5	11.4	1.3	5.1
逸見地域（46人）	67.4	30.4	19.6	8.7	10.9	21.7	52.2	26.1	28.3	28.3	6.5	15.2	0.0	2.2
衣笠地域（232人）	51.7	22.4	8.6	8.6	9.1	19.4	37.5	34.9	48.3	12.9	5.6	13.4	1.3	9.5
大津地域（156人）	53.8	33.3	21.8	9.6	10.9	17.9	64.1	29.5	45.5	19.9	5.1	16.0	2.6	3.8
浦賀地域（213人）	60.1	39.9	16.0	6.6	7.0	20.2	30.0	22.5	34.3	5.6	2.8	13.1	0.9	8.9
久里浜地域（216人）	49.1	27.8	12.5	10.6	17.1	22.2	48.1	28.7	59.3	28.7	6.9	15.7	1.9	5.6
北下浦地域（124人）	59.7	37.9	15.3	7.3	7.3	17.7	55.6	17.7	44.4	12.1	1.6	14.5	1.6	4.8
西地域（144人）	58.3	37.5	13.9	9.7	9.0	26.4	7.6	34.7	31.9	6.3	6.9	15.3	0.0	9.0

問 1 3 仮に、今のお住まいから転居するとしたら、新しいお住まいの周辺の環境で、特に重視するのはどのような点ですか。（〇は3つまで）

- 「交通・通勤などの便利さ」（53.4%）が5割を超え最も多く、次いで「ふだん買い物をする場所の近さ」（46.1%）、「病院・医院の近さ」（40.5%）の順となっており、日々の暮らしに直結することや生活利便性が重視されている。この傾向は、地域別でも大きく変わらない。
- 年代別でみると、どの年代も「交通・通勤などの便利さ」、「ふだん買い物をする場所の近さ」といった生活利便性に関わる項目の割合は、やはり高い。10代～30代では「飲食やショッピングの便利さ」、50代～80代では「病院・医院の近さ」が、転居時に重視する環境として多く選択され、ライフステージによる必要性の違いが見受けられる。

図表－問 1 3－① 転居時に重視する環境（N=1342 人）



図表－問 1 3－② 転居時に重視する環境（年代別）

	周辺の静かさ	緑や自然やオープンスペースの豊かさ	街並みなどの景観の良さ	子育ての環境の良さ	学校、図書館など教育・学習環境の良さ	近所づき合いのしやすさ	交通・通勤などの便利さ	病院・医院の近さ	ふだん買い物をする場所の近さ	飲食やショッピングの便利さ	遊びや余暇活動の便利さ	防災・防犯などの安心さ	その他	特にない
10代（69人）	23.2	15.9	14.5	8.7	14.5	7.2	60.9	11.6	33.3	33.3	18.8	24.6	0.0	1.4
20代（127人）	22.0	12.6	10.2	17.3	9.4	1.6	66.1	18.1	36.2	25.2	15.7	15.0	3.1	4.7
30代（173人）	22.0	15.6	6.4	19.7	11.0	11.6	63.0	20.2	44.5	24.3	9.2	20.2	1.7	1.7
40代（150人）	26.0	22.0	10.0	5.3	10.7	14.0	64.0	24.7	42.0	15.3	4.7	28.7	2.0	2.0
50代（202人）	31.7	15.8	13.4	1.5	4.5	6.4	59.4	34.2	49.0	22.8	3.0	28.7	0.5	1.5
60代（210人）	27.6	19.0	10.5	1.4	3.3	10.0	48.6	54.8	54.3	18.6	1.4	26.7	1.0	1.0
70代（222人）	24.8	18.9	6.8	1.4	4.5	14.0	38.7	61.7	50.0	13.5	2.3	25.7	0.0	3.2
80代（182人）	33.5	18.1	5.5	1.6	1.6	17.0	40.7	63.7	44.0	15.9	1.6	27.5	1.1	2.2

図表－問 1 3－③ 転居時に重視する環境（地域別）

	周辺の静かさ	緑や自然やオープンスペースの豊かさ	街並みなどの景観の良さ	子育ての環境の良さ	学校、図書館など教育・学習環境の良さ	近所づき合いのしやすさ	交通・通勤などの便利さ	病院・医院の近さ	ふだん買い物をする場所の近さ	飲食やショッピングの便利さ	遊びや余暇活動の便利さ	防災・防犯などの安心さ	その他	特にない
本庁地域（207人）	25.1	16.9	10.1	5.3	6.3	7.7	58.0	36.2	53.6	21.7	6.3	21.3	1.9	2.4
追浜地域（100人）	26.0	27.0	8.0	7.0	6.0	7.0	54.0	37.0	49.0	20.0	7.0	27.0	2.0	1.0
田浦地域（67人）	26.9	16.4	7.5	3.0	6.0	11.9	46.3	50.7	49.3	20.9	6.0	20.9	0.0	1.5
逸見地域（38人）	34.2	5.3	10.5	5.3	7.9	18.4	68.4	28.9	18.4	31.6	2.6	34.2	5.3	0.0
衣笠地域（195人）	27.7	20.0	6.7	4.1	9.7	14.4	54.4	42.1	46.7	19.0	6.7	22.1	0.5	1.0
大津地域（133人）	27.1	14.3	10.5	5.3	5.3	10.5	57.1	39.1	42.1	15.0	3.8	30.8	0.8	2.3
浦賀地域（175人）	30.9	18.3	11.4	7.4	7.4	9.1	50.9	41.7	35.4	18.3	4.6	21.7	0.6	4.6
久里浜地域（192人）	26.0	15.1	7.3	7.8	5.2	11.5	49.0	42.7	55.7	16.7	5.2	28.1	1.0	1.6
北下浦地域（108人）	20.4	15.7	13.9	12.0	4.6	12.0	61.1	36.1	47.2	22.2	5.6	26.9	0.9	1.9
西地域（118人）	28.0	19.5	7.6	2.5	5.1	10.2	43.2	44.9	38.1	23.7	5.1	27.1	0.8	3.4

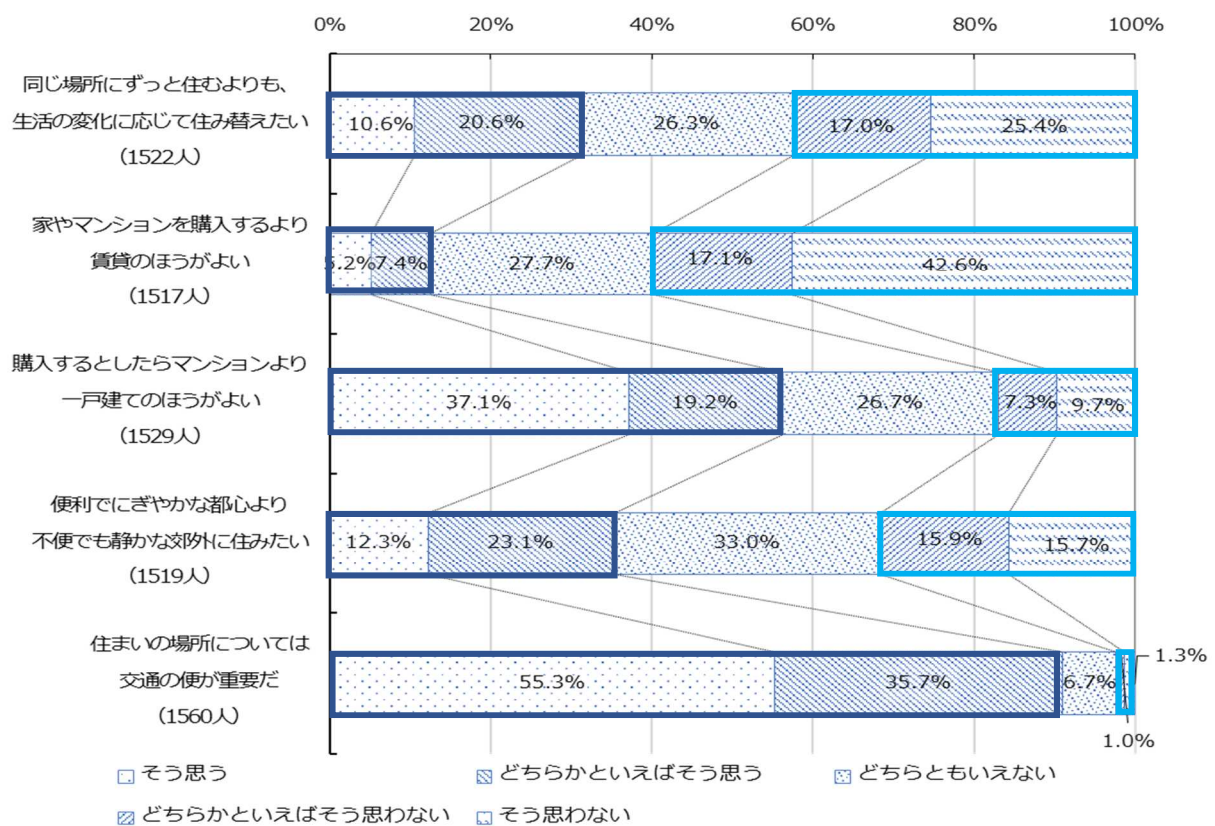
問 1 4 住まいに関する次のような意見について、あなたはどのように思いますか。
当てはまるものをお選びください。(〇はそれぞれ1つ)

- 住まいに関する5つの意見への共感度について、「住まいの場所については交通の便が重要だ」に対する共感が最も高く、『思う(計)』¹³(91.0%)が9割を超えている。これについては、問12、問13の回答と同様、利便性を重視する傾向がうかがえる。

また、「購入するとしたらマンションより一戸建てのほうがよい」「便利でにぎやかな都心より不便でも静かな郊外に住みたい」についても、共感が高い。この点についても、問12で示された、閑静な場所での暮らしを求める回答傾向と類似する。

- 一方、「家やマンションを購入するより賃貸のほうがよい」「同じ場所にずっと住むよりも、生活の変化に応じて住み替えたい」については、共感度が低いという特徴がみられた。

図表－問14－① 住まいに関する意見への共感度

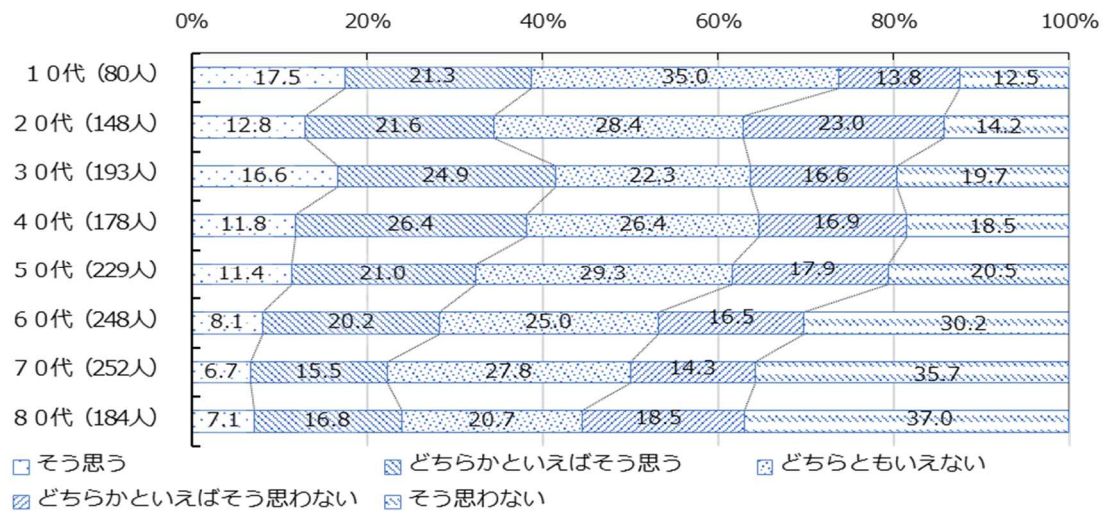


¹³ 「思う」と「どちらかといえば思う」の合計

〈同じ場所にずっと住むよりも、変化に応じて住み替えたい〉（年代別）

- 『思う（計）』は、30代（41.5%）で4割を超え最も多いが、高齢になるにつれて、『思う（計）』が減少、『思わない（計）』が増加し、共感性が下がる傾向にある。

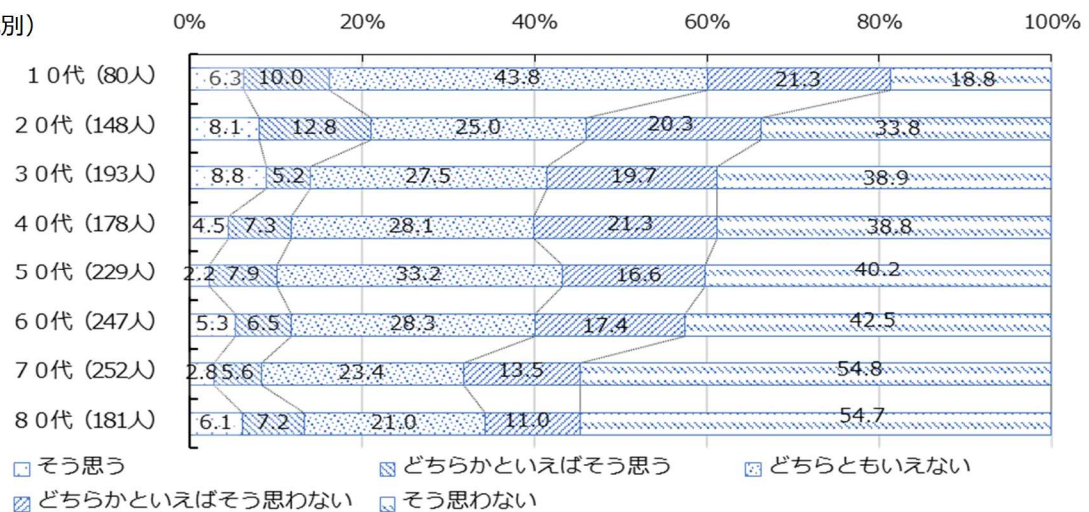
図表－問14－② 住まいに関する意見への共感性〈同じ場所にずっと住むよりも、変化に応じて住み替えたい〉（年代別）



〈家やマンションを購入するより賃貸のほうがよい〉（年代別）

- どの年代も、『思わない（計）』が『思う（計）』より多く、共感性が低いことから、賃貸よりも持ち家を希望する傾向が強くみられる。70代～80代では7割近く、特にその傾向が強い。

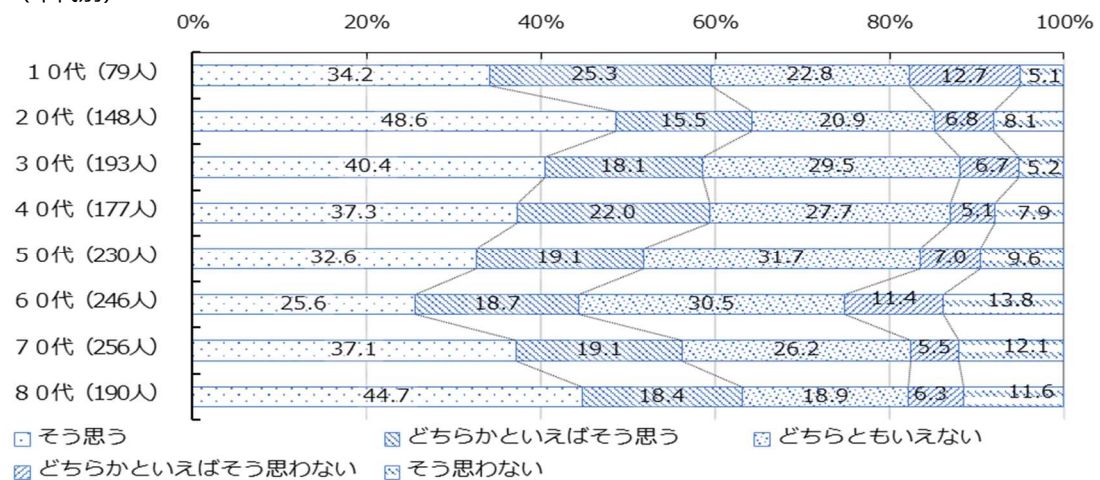
図表－問14－③ 住まいに関する意見への共感性〈家やマンションを購入するより賃貸のほうがよい〉（年代別）



〈購入するとしたらマンションより一戸建てのほうがよい〉（年代別）

- どの年代でも、『思う（計）』が、『思わない（計）』より多く、マンションより一戸建てを望む傾向にある。60代で共感度が低くなっているが、これについては、子どもの独立による世帯構成の変化や住まいのメンテナンス時期などが影響していると考えられる。

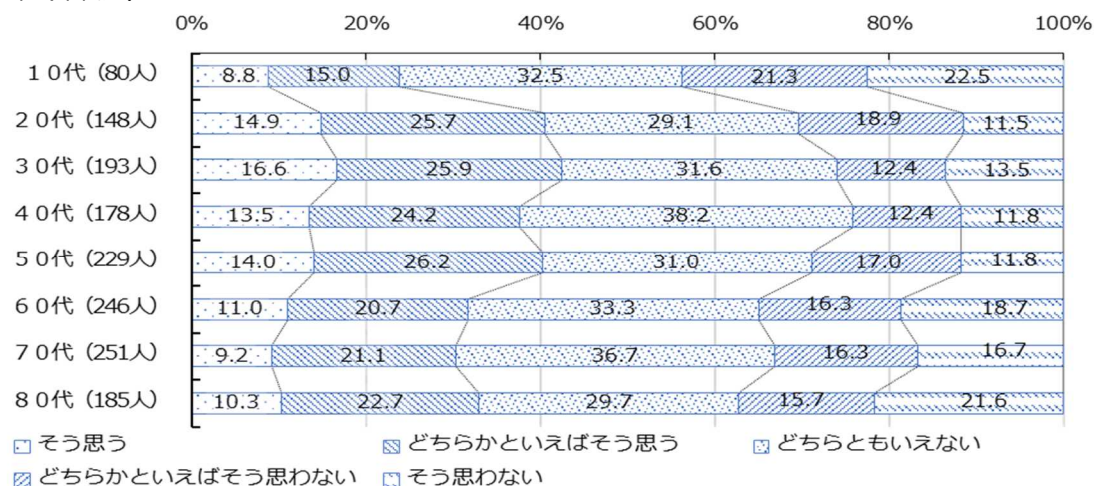
図表－問14－④ 住まいに関する意見への共感度〈購入するとしたらマンションより一戸建てのほうがよい〉（年代別）



〈便利でにぎやかな都心より不便でも静かな郊外に住みたい〉（年代別）

- 特に20代～50代で、『思う（計）』が、『思わない（計）』より多く、共感度が高い。子育て世代が、落ち着いた生活環境での育児や日々の暮らしを望んでいることが推測される。

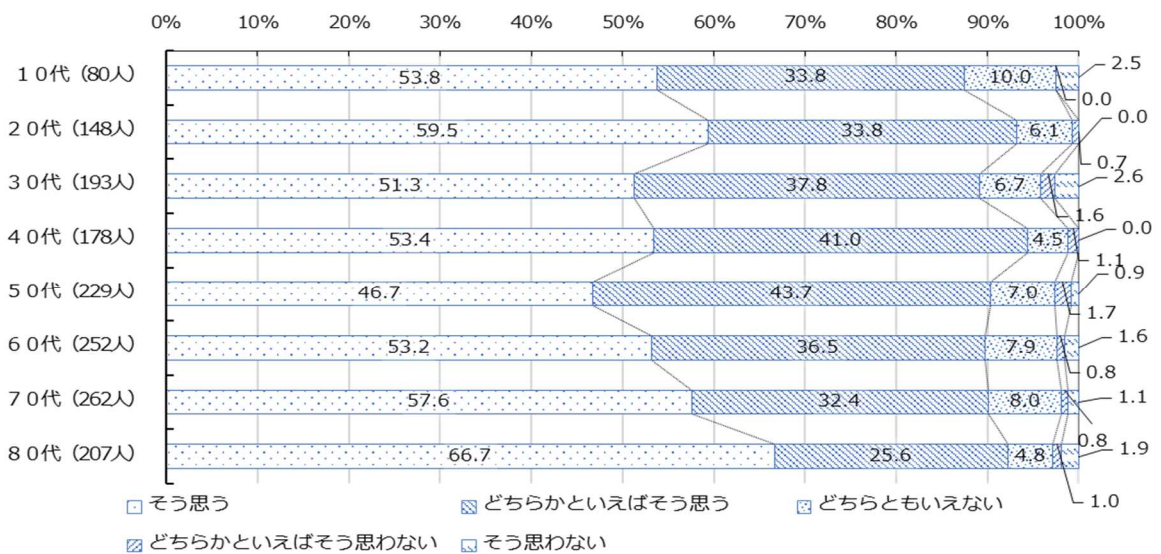
図表－問14－⑤ 住まいに関する意見への共感度〈便利でにぎやかな都心より不便でも静かな郊外に住みたい〉（年代別）



〈住まいの場所については交通の便が重要だ〉（年代別）

- どの年代も『思う（計）』が9割前後で、住まいの場所には交通の便を重視している。
前項目で、〈便利でにぎやかな都心より不便でも静かな郊外に住みたい〉への共感が高かったが、交通利便性の良さは、居住場所を選ぶうえで、欠かせない要因であることがわかる。

図表－問14－⑥ 住まいに関する意見〈住まいの場所については交通の便が重要だ〉（年代別）

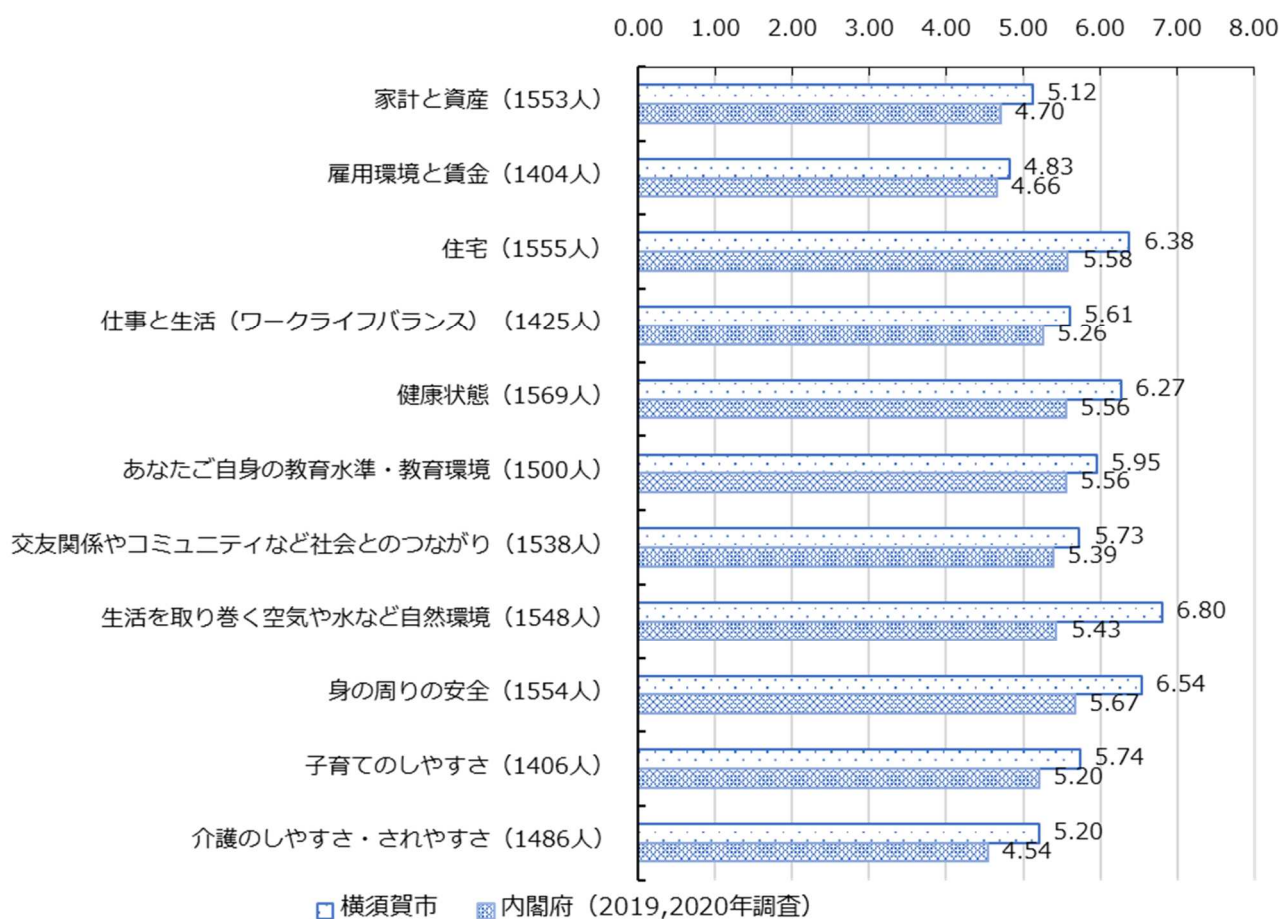


V. 生活意識について

問 15 あなたは、生活に関するさまざまな分野における満足の度合いについて、「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。(〇はそれぞれ1つ)

- 満足度が高い分野は、「生活を取り巻く空気や水など自然環境」(6.80)、「身の周りの安全」(6.54)、「住宅」(6.38)となった。一方で、「雇用環境と賃金」(4.83)、「家計と資産」(5.12)、「介護のしやすさ・されやすさ」(5.20)などが低くなった。
- 調査方法やサンプル数などが異なり、単純に比較することはできないが、類似の内閣府の調査結果¹⁴と比べると、どの分野においても満足度は高く、「生活を取り巻く空気や水など自然環境」、「身の周りの安全」、「住宅」については、特に高い。

図表－問 15 分野別主観満足度



¹⁴ 内閣府「満足度・生活の質に関する調査」に関する第4次報告書 p147

問 1 6 あなたは、全体として現在の生活にどの程度満足していますか。「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。(〇は1つ)

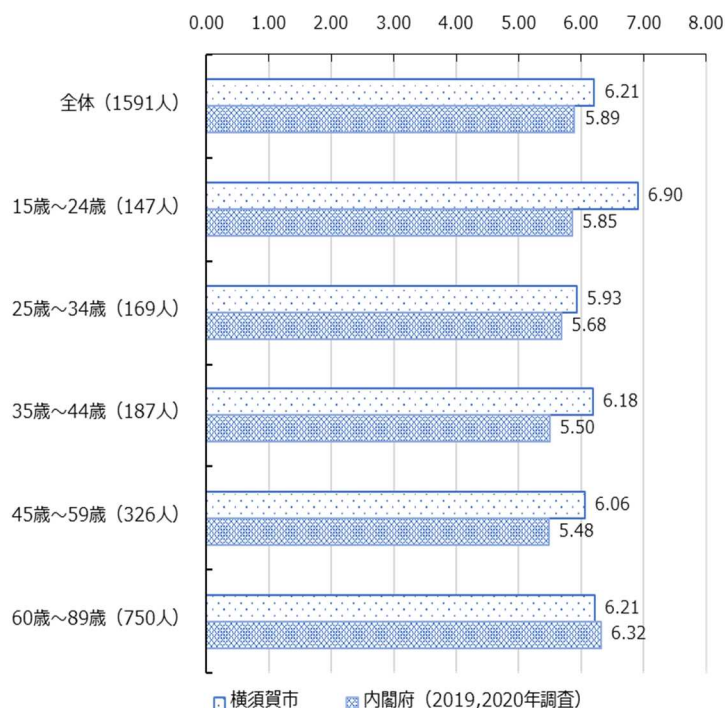
- 現在の生活全体の満足度（総合主観満足度）は、全体平均が 6.21 となった。前問と同様に単純比較はできないが、類似の内閣府の調査結果¹⁵より 0.32 ポイント高い。
- 年代別では、25 歳～34 歳の平均が 5.93 と最も低い。15 歳～59 歳では、類似の内閣府の調査結果よりも満足度が高いが、60 歳～80 歳では、やや低くなっている。

問 1 7 問 1 6 でお伺いした「現在の生活全体の満足度」を判断する際に、重視した事項は何ですか。第 1 位から第 3 位の順に、それぞれ 1 つずつ選んで、番号をお書きください。

- 総合主観満足度を判断する要因として、「家計と資産」「健康状態」「住宅」の満足度が大きく影響していることがわかる。直接的に生活基盤の安定に関わる分野の充実が、生活全体の満足度の大きな要因になっていることがうかがえる。

図表－問 1 6

総合主観満足度（全体と年代別）



図表－問 1 7

総合主観満足度と分野別主観満足度の関係

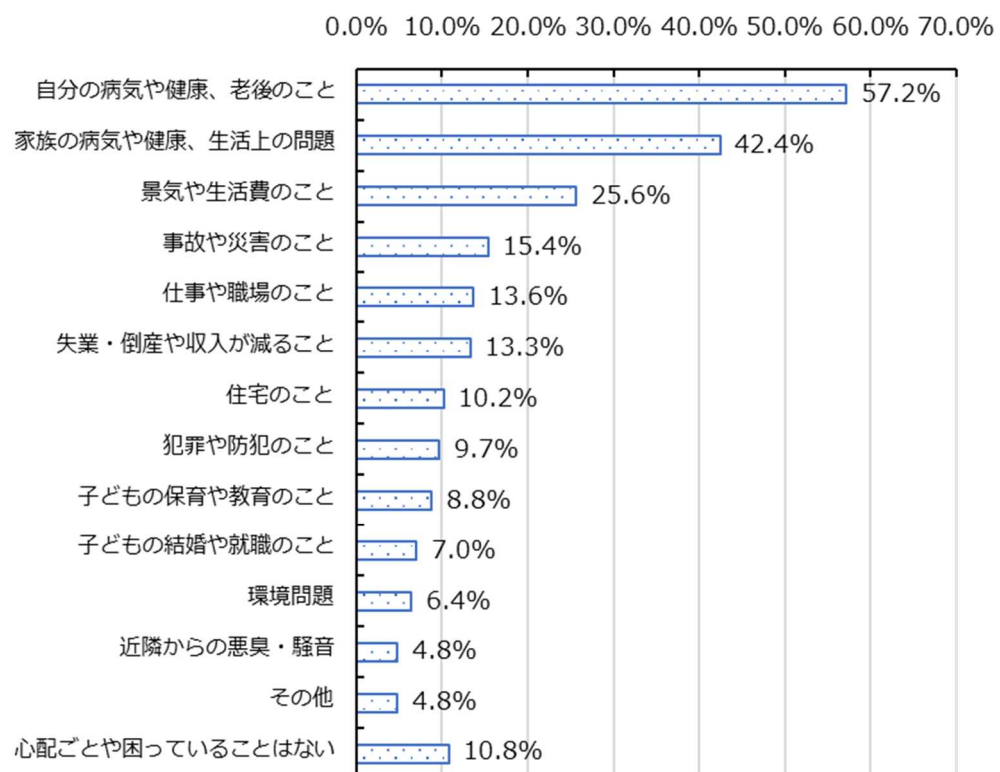
	(%)		
	第1位	第2位	第3位
家計と資産	28.5	13.1	10.5
健康状態	21.8	19.2	14.7
住宅	12.1	15.9	13.3
仕事と生活	10.8	10.1	10.4
自然環境	6.8	7.6	10.0
雇用環境と賃金	6.5	11.4	6.7
身の周りの安全	5.1	6.8	13.1
社会とのつながり	3.3	8.0	9.1
子育てのしやすさ	2.4	3.4	3.5
介護のしやすさ・されやすさ	1.8	3.2	6.7
教育水準・教育環境	0.8	1.4	2.0

¹⁵ 内閣府「満足度・生活の質に関する調査」に関する第4次報告書 p141

問 18 あなたは、近頃、ご自分やご家族の生活のことで心配ごとや困っていることがありますか。(〇は3つまで)

- 「自分の病気や健康、老後のこと」(57.2%) が最も多く 6 割近い。次いで、「家族の病気や健康、生活上の問題」(42.4%)、「景気や生活費のこと」(25.6%) となっている。新型コロナウイルス感染症の広がりの長期化やそれに伴う新しい生活様式への対応といった現状の心労、先行きの見えない将来への危惧といった漠然とした不安が背景にあることが推察される。
- 年代別では、「自分の病気や健康、老後のこと」を選択する割合が、高齢になるにつれて増えている。また、「景気や生活費のこと」については、子育ての中心となる 20 代～40 代の選択割合が多い。また、どの年代においても、「家族の病気や健康、生活上の問題」は高い割合で選択されている。

図表－問 18－① 心配ごとや困っていること (N=1556 人)



図表－問18－② 心配ごとや困っていること（年代別）

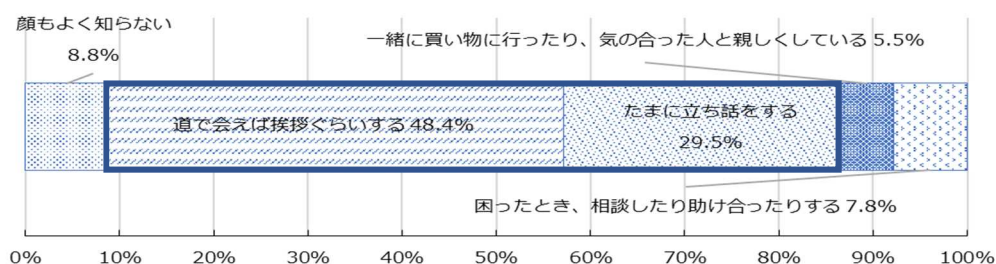
	自分の病 気や健康、 老後のこと	家族の病 気や健康、 生活上の問 題	失業・倒 産や収入が 減ること	仕事や職 場のこと	景気や生 活費のこと	子 ども の保 育や 教育 の こと	子 ども の結 婚や 就職 の こと	近 隣 から の悪 臭・ 騒音	環 境問 題	事 故や 災 害の こと	犯 罪や 防 犯の こと	住 宅の こと	そ の 他	心 配 ご と や 困 っ て い る こ と は な い
10代（79人）	13.9	25.3	15.2	11.4	12.7	5.1	1.3	8.9	6.3	19.0	16.5	3.8	5.1	32.9
20代（143人）	29.4	34.3	18.9	33.6	30.1	16.8	3.5	5.6	6.3	16.1	9.8	5.6	6.3	11.2
30代（189人）	37.0	41.8	19.0	29.1	31.2	27.5	1.6	7.9	5.8	14.3	10.1	5.8	6.9	7.4
40代（173人）	50.3	49.7	19.1	23.7	30.1	22.0	9.2	5.8	2.3	8.7	8.1	9.8	4.0	8.7
50代（227人）	59.9	50.7	22.5	15.4	27.8	5.7	12.8	3.1	5.7	11.0	5.3	13.7	3.5	8.4
60代（249人）	66.3	39.0	12.4	7.2	26.9	1.2	11.6	5.2	6.0	15.3	9.6	13.3	6.0	10.0
70代（263人）	77.6	44.1	5.3	1.1	21.3	0.8	7.2	2.7	8.7	14.4	8.0	14.4	3.0	10.6
80代（224人）	75.4	41.5	1.3	0.4	20.1	0.4	3.1	3.6	8.9	24.6	15.2	7.1	4.5	10.7

VI. 隣近所や地域とのつき合いについて

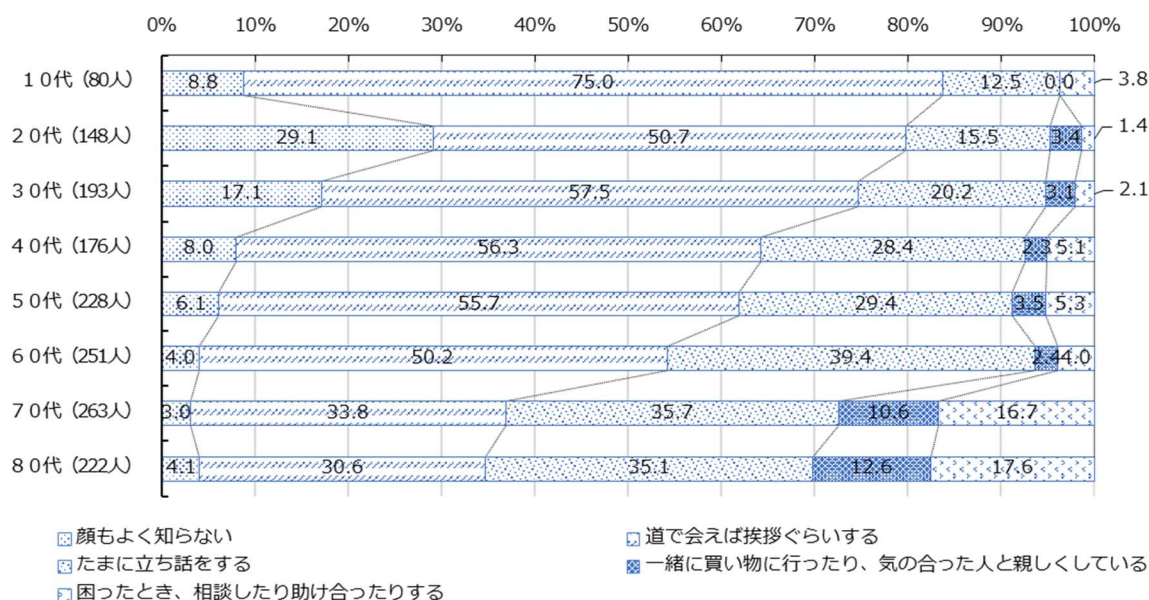
問19 あなたは、隣近所と普段どのようなつき合い方をしていますか。(〇は1つ)

- 「道で会えば挨拶ぐらいする」(48.4%)、「たまに立ち話をする」(29.5%)といった顔の見える関係が、8割近く選択された。「顔もよく知らない」(8.8%)は、1割未満となった¹⁶。
- 年代別では、20代で「顔もよく知らない」(29.1%)が3割近くで最も多い。一方で、70代～80代では、「一緒に買い物に行ったり、気の合った人と親しくしている」や「困ったとき、相談したり助け合ったりする」といった比較的親密なつき合いをしている割合が、約3割となっている。高齢者の一人暮らしが増加する中で、日ごろから近所の人たちが声を掛け合ったり、気に掛け合ったりしていることが推測される。

図表－問19－① 隣近所とのつき合い方 (N=1571人)



図表－問19－② 隣近所とのつき合い方 (年代別)

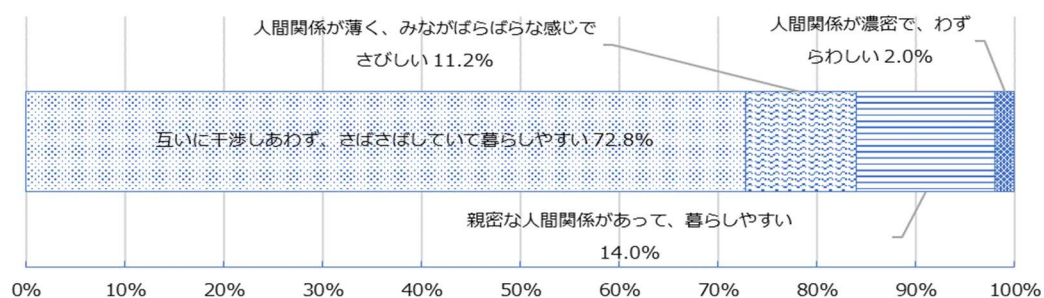


¹⁶ 類似の調査「令和2年度横浜市民意識調査」によると、横浜市の隣近所とのつき合い方は、「顔もよく知らない」は14.0%、「道で会えば挨拶ぐらいする」は50.0%、「たまに立ち話をする」は25.3%、「一緒に買い物に行ったり、気の合った人と親しくしている」は4.6%、「困ったとき、相談したり助け合ったりする」は4.2%、「無回答」は1.8%となっている。

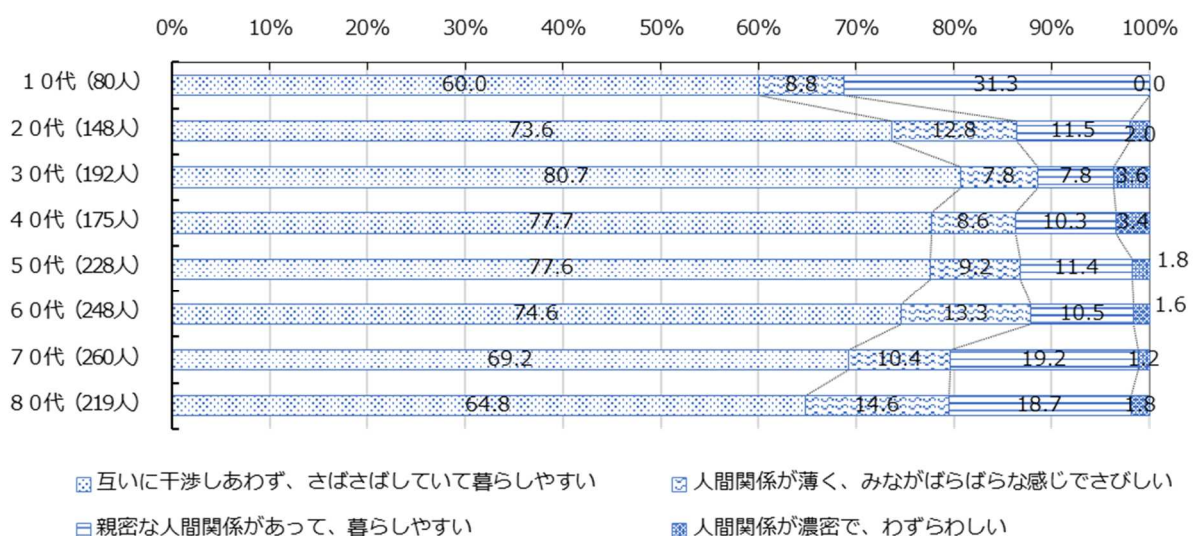
問 2 0 あなたは、隣近所とのつき合いをどのように感じていますか。(〇は1つ)

- 「互いに干渉しあわず、さばさばしていて暮らしやすい」(72.8%) が7割を超えており、最も多い。次いで、「親密な人間関係があって、暮らしやすい」(14.0%) となっている。一方、「人間関係が薄く、みながばらばらな感じでさびしい」(11.2%) といった、希薄な隣近所とのつき合いに寂しさを感じている回答者が1割程度いる。
- 年代別では、30代～50代で、「互いに干渉しあわず、さばさばしていて暮らしやすい」が約8割となっている。その一方で、70代～80代では「親密な人間関係があって、暮らしやすい」が2割近く選択されている。多様なライフスタイルが広がるなか、適度に距離のある、自立した関係性を築いている様子が見えてくる。しかしながら、高齢になると、身体的な変化や世帯構成の変容などの要因により、隣近所とのつながりが強くなることで、暮らしやすさを感じる傾向が見られる。

図表－問 2 0－① 隣近所とのつき合いの感じ方 (N=1560 人)



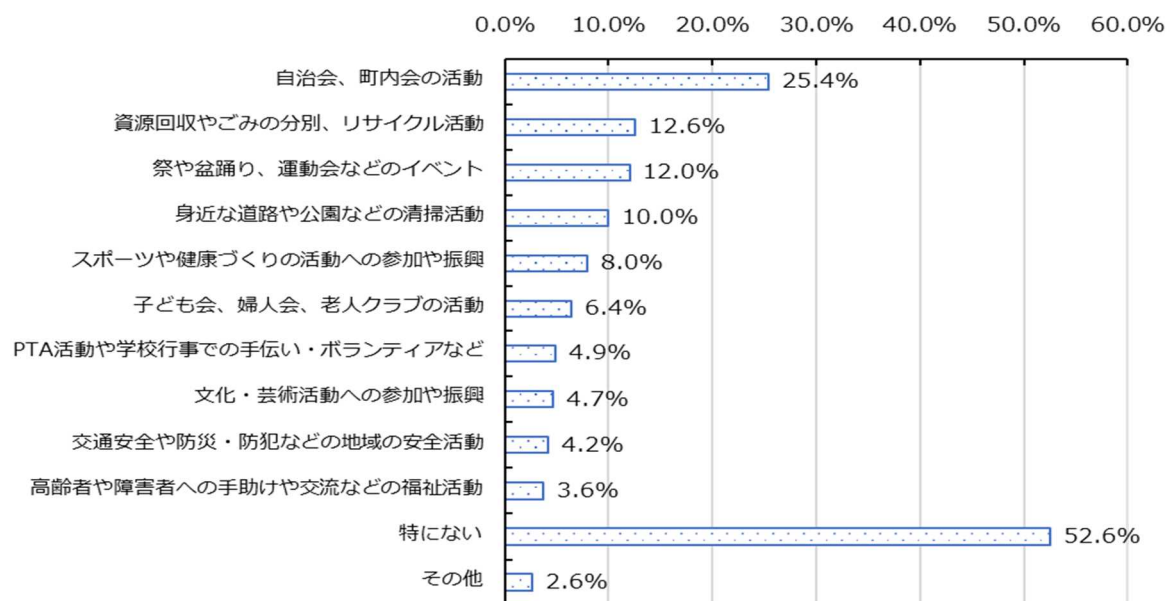
図表－問 2 0－② 隣近所とのつき合いの感じ方 (年代別)



問 2 1 あなたは、現在、地域でどのような活動に参加していますか。(〇はいくつでも)

- 参加している活動としては、「自治会、町内会の活動」(25.4%)、「資源回収やごみの分別、リサイクル活動」(12.6%)、「祭や盆踊り、運動会などのイベント」(12.0%)の順となっている。一方で、「特にない」(52.6%)は、5割を超えている。
- 年代別でみると、どの年代も「自治会、町内会の活動」が多く選ばれており、なかでも70代(35.5%)が多く、20代の選択は1割程度で、高齢者が支える地域活動の現状がうかがえる。

図表－問 2 1－① 地域での参加活動 (N=1564 人)



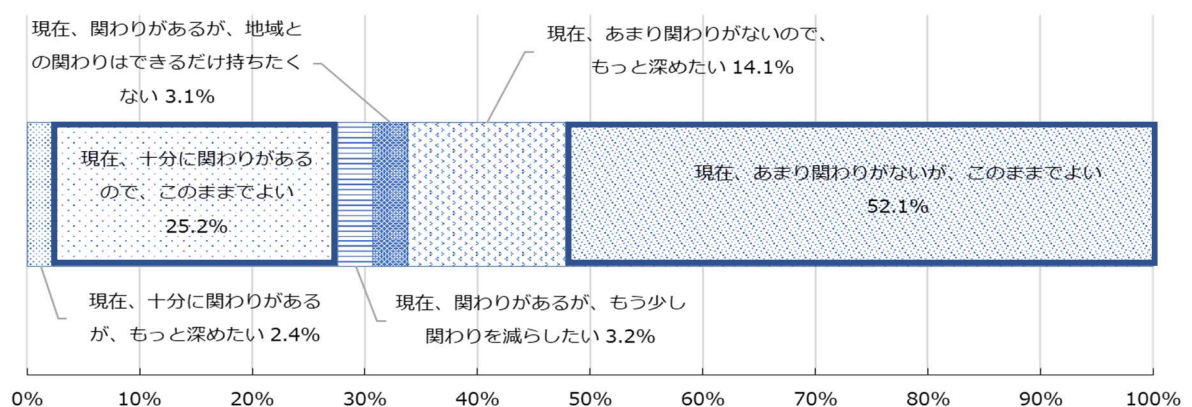
図表－問 2 1－② 地域での参加活動 (年代別)

	自治会、町内会の活動	子ども会、婦人会、老人クラブの活動	高齢者や障害者への手助けや交流などの福祉活動	身近な道路や公園などの清掃活動	文化・芸術活動への参加や振興	スポーツや健康づくりの活動への参加や振興	祭や盆踊り、運動会などのイベント	資源回収やごみの分別、リサイクル活動	PTA活動や学校行事での手伝い・ボランティアなど	交通安全や防災・防犯などの地域の安全活動	その他	特にない
10代 (80人)	10.0	6.3	2.5	6.3	1.3	1.3	23.8	11.3	10.0	3.8	1.3	56.3
20代 (148人)	10.1	0.7	1.4	2.0	2.7	2.7	10.1	6.1	1.4	2.0	3.4	73.6
30代 (192人)	19.3	5.2	1.6	5.7	0.5	4.7	15.6	14.6	9.4	2.1	1.0	58.9
40代 (177人)	29.9	6.8	1.1	8.5	3.4	5.6	12.4	11.3	16.9	4.5	2.8	49.7
50代 (229人)	26.6	1.7	1.7	4.8	5.2	7.9	8.7	10.5	3.5	2.6	0.9	55.0
60代 (249人)	26.1	1.6	5.2	8.8	4.0	8.0	9.6	12.0	1.6	4.0	4.4	53.8
70代 (259人)	35.5	11.6	6.6	16.2	7.7	13.5	12.7	17.4	1.9	8.1	3.5	40.5
80代 (221人)	29.9	14.9	6.3	20.4	8.6	12.7	11.3	13.1	0.9	4.5	2.7	43.9

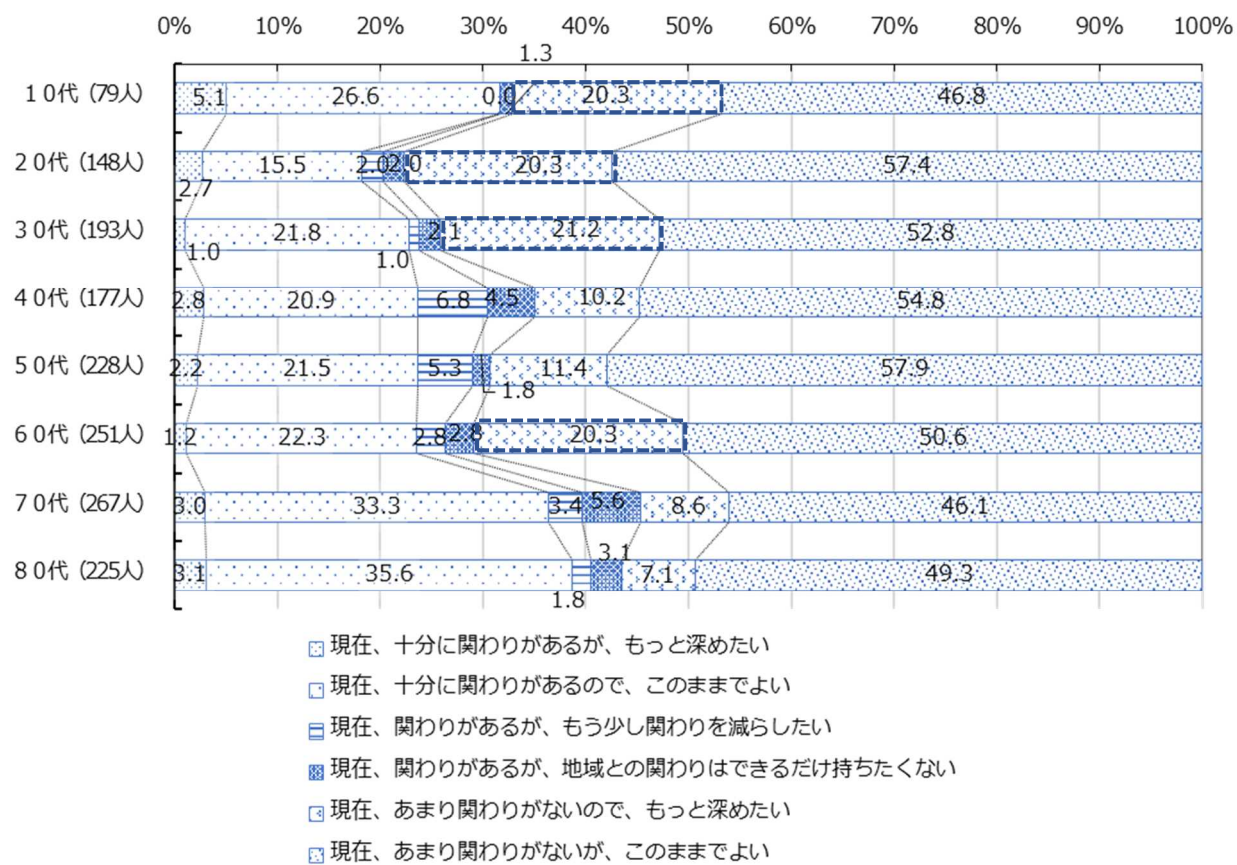
問 2 2 あなたは、今後、地域の活動に参加するなど、地域の人ともっと親しくしたり、地域との関わりをより深めたいと思っていますか。あなたのお気持ちに最も近いものを選んでください。(〇は1つ)

- 「現在、あまり関わりがないが、このままでよい」(52.1%)と、「現在、十分に関わりがあるので、このままでよい」(25.2%)をあわせた約8割が、現状のままでよいといった、ちょうど良い関係性を築いている。
- 年代別でみると、10代～30代および60代で、「現在、あまり関わりがないので、もっと深めたい」が、2割以上となっている。現状のままでよいと感じている割合が多くなかで、若い世代の一定数が、地域社会とのつながりを望んでいる様子がうかがえる。地域活動の活性化に向けて、活動内容の見直しや地域版 SNS の活用など、時代に応じた地域コミュニティのあり方の検討を進めていく必要がある。

図表－問 2 2－① 今後の地域との関わり (N=1578 人)

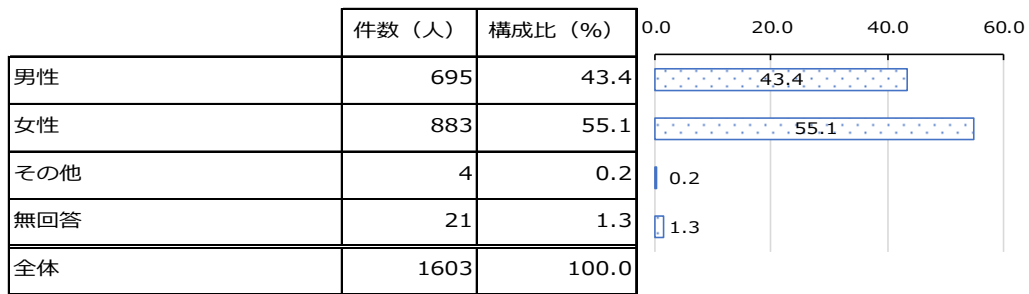


図表－問 2 2－② 今後の地域との関わり（年代別）

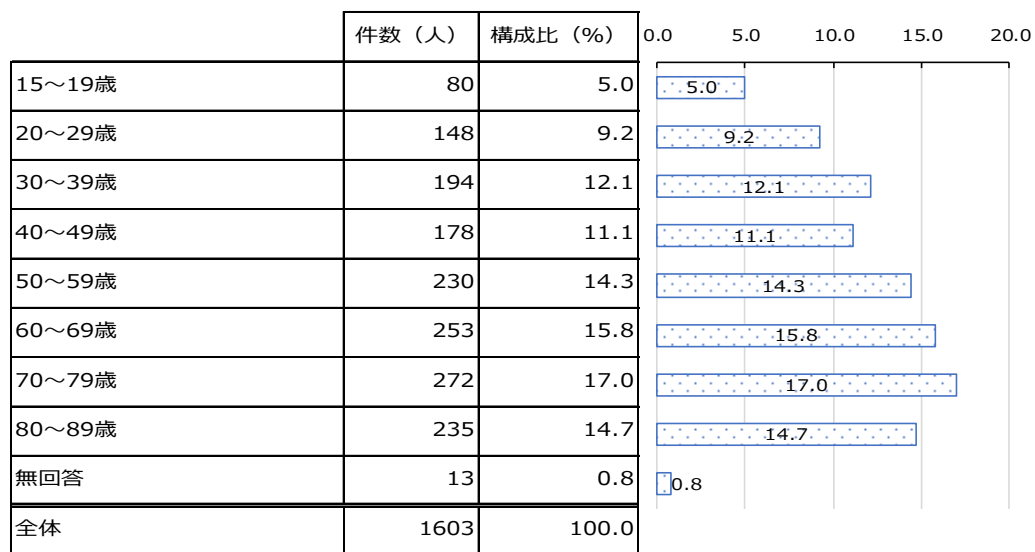


3. 基本的な属性

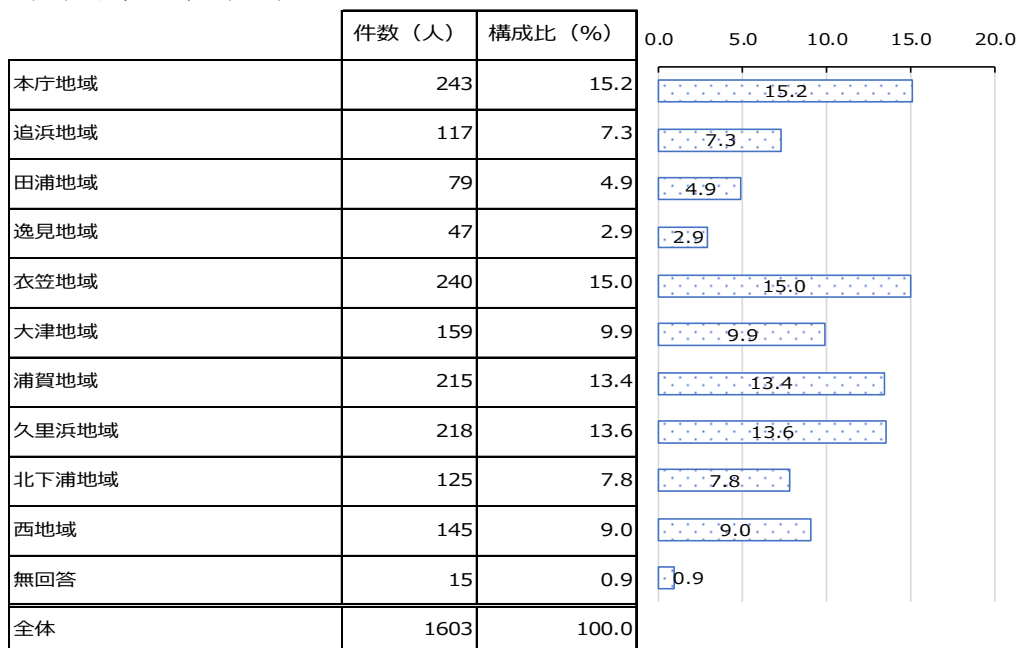
(1) 性別 (F1)



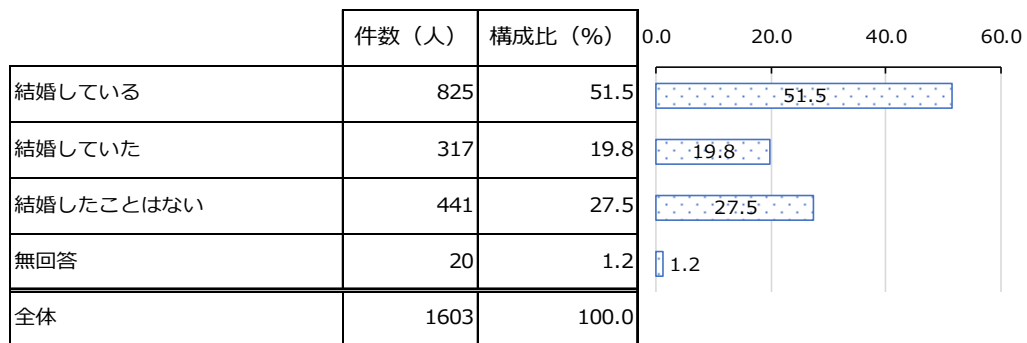
(2) 年齢 (F2)



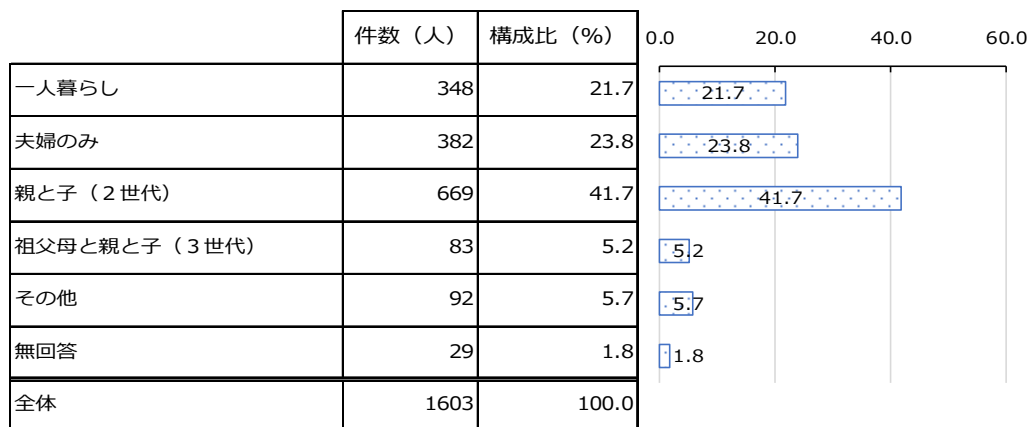
(3) 居住地域 (F3)



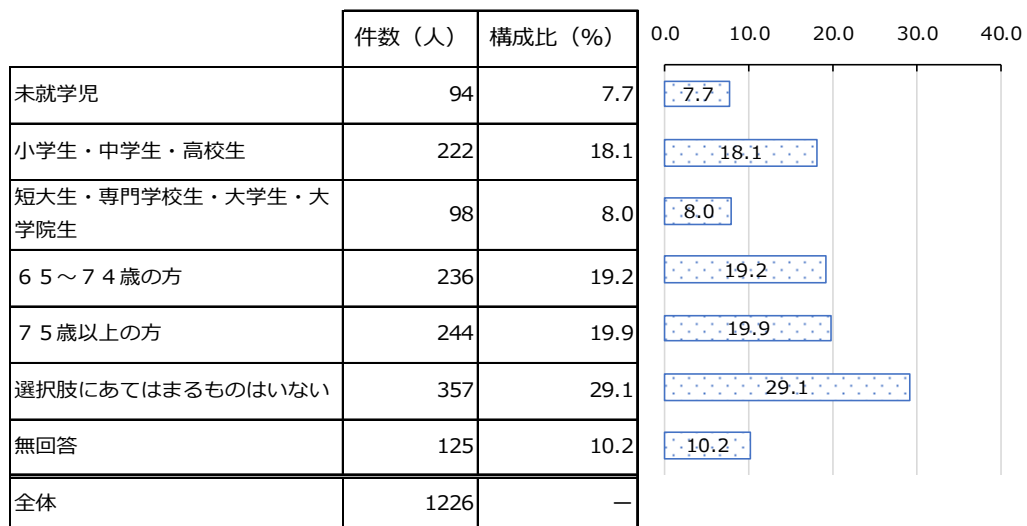
(4) 結婚の有無 (F4)



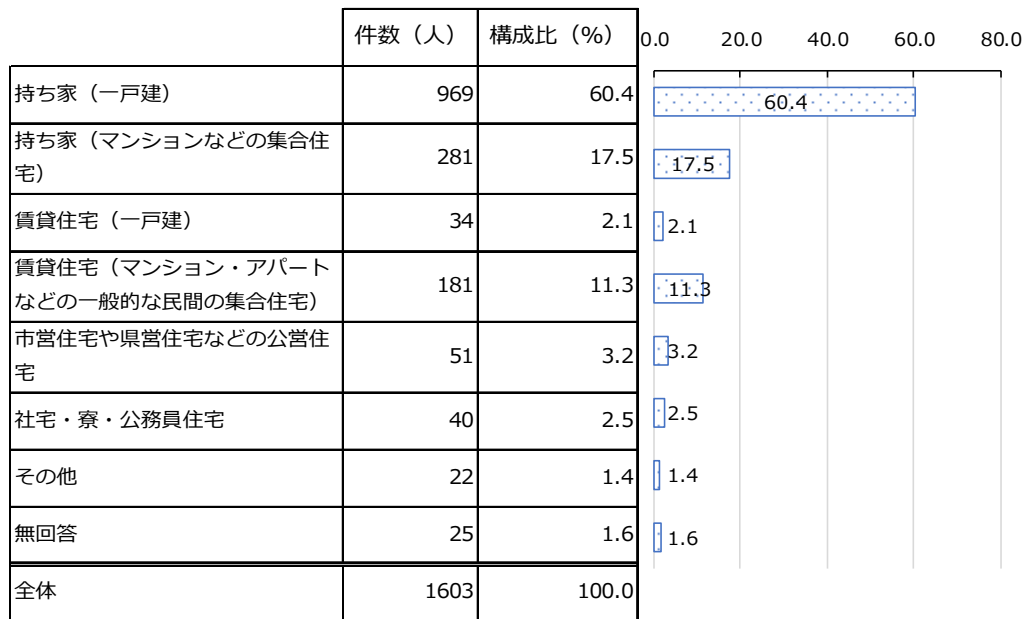
(5) 世帯構成 (F5)



(6) 同居状況 (複数回答) (F6)



(7) 住宅形態 (F7)



(8) 職業 (F8)



4. 調査票

「横須賀市民アンケート」へのご協力のお願い

横須賀市では、「横須賀再興プラン（2018～2021）」に基づき、市が持つ地域の魅力や特性を生かして、将来に向けて希望や期待の持てるまちの実現を目指しています。

今回お送りしたアンケートは、市民の皆さまの生活意識や横須賀市の取り組みに対する実感をお伺いし、今後の取り組みの参考にさせていただくために実施するものです。

本調査の趣旨にご理解を賜り、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和3年（2021年）1月

横須賀市長

上地克明

○調査について

- ・調査は、無記名で実施します。
- ・また、調査票はランダムに封入しているため、回答者が特定されることは一切ありません。
- ・調査票は、住民基本台帳（2020年12月1日現在）から無作為に抽出した15歳以上の3,000人の皆さまにお送りしています。調査結果は、後日、市ホームページなどで公表します。

○回答方法について

次の①、②のいずれかの方法でご回答ください。

① 調査票（この冊子）で回答

- ・設問ごとに「○は1つ」などと指定していますので、あてはまる番号に○を付けてください。
 - ・調査票（この冊子）は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れ、郵便ポストに投函してください。
- ※表紙（この紙）は取らずに、このまま投函をお願いします。

② パソコン・タブレット・スマートフォンでオンライン回答

【オンライン回答ページ（e-kanagawa 電子申請システム）】

https://dshinsei.e-kanagawa.lg.jp/142018-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=10780

- ・ブラウザのURL欄に上記URLを入力して画面を開いてください。
- （スマートフォンからは、右のQRコードを読み取ってアクセスできます。）
- ・回答の際は、はじめに以下の「オンライン回答用パスワード」を入力してください。

オンライン回答用パスワード



1月26日（火）まで

に、ご回答（ご投函）をお願いいたします。

○お問い合わせ先

この調査に関するご不明な点は、下記部署までお問い合わせください。

横須賀市 経営企画部 都市戦略課
Tel 046 (822) 9784 Fax 046 (822) 9285
Email upi-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp

I 横須賀市の主な取り組みについて伺います

横須賀市では今、地域の魅力や特性を最大限に活用した取り組みを進めています。こうした取り組みに対する皆さまの認知度や実感についてお伺いします。

問1 あなたは、横須賀市の次のような取り組みについて知っていますか。(〇はそれぞれ1つ)

番号	地域の魅力や特性を活用した取り組み	1 知っている	2 知らない
①	海を活用した取り組み	1	2
②	音楽を活用した取り組み	1	2
③	スポーツを活用した取り組み	1	2
④	アート・芸術を活用した取り組み	1	2
⑤	歴史を活用した取り組み	1	2
⑥	地域のつながりを深めるための取り組み	1	2

問2 今の横須賀市で、次の取り組みが進んでいる実感はありますか。(〇はそれぞれ1つ)

番号	地域の魅力や特性を活用した取り組み	1 ある	2 どちらか といえば ある	3 どちらと もいえな い	4 あまり ない	5 ない	6 わから ない
①	海を活用した取り組み	1	2	3	4	5	6
②	音楽を活用した取り組み	1	2	3	4	5	6
③	スポーツを活用した取り組み	1	2	3	4	5	6
④	アート・芸術を活用した取り組み	1	2	3	4	5	6
⑤	歴史を活用した取り組み	1	2	3	4	5	6
⑥	地域のつながりを深めるための取り組み	1	2	3	4	5	6

問3 次の取り組みの中で、横須賀全体に、良い影響を与えていると感じるものを選んでください。(〇は1つ) また、その理由もお答えください。

- | | |
|-------------------|----------------------|
| ① 海を活用した取り組み | ⑤ 歴史を活用した取り組み |
| ② 音楽を活用した取り組み | ⑥ 地域のつながりを深めるための取り組み |
| ③ スポーツを活用した取り組み | ⑦ 特になし |
| ④ アート・芸術を活用した取り組み | |

理由

--

Ⅱ 市政に対する評価と要望について伺います

問4 あなたが、横須賀市の取り組みの中で、十分に行われていると感じるものはどれですか。
(〇はいくつでも)

- 1 国際交流の推進
- 2 行財政改革の推進
- 3 情報公開や広報活動の充実
- 4 市政への市民参加や住民自治の推進
- 5 地域におけるつながりの促進
- 6 防犯対策や交通安全対策
- 7 災害対策
- 8 文化的な催しや文化施設の整備
- 9 性別や国籍など多様性の尊重
- 10 地域経済の振興と雇用の促進
- 11 観光推進、都市イメージの向上
- 12 公園の美化・維持管理
- 13 大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策
- 14 ごみの減量化やポイ捨てごみ対策
- 15 子育て支援
- 16 高齢者福祉
- 17 障害者福祉
- 18 自然環境の保全
- 19 健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための取り組み
- 20 商店街振興
- 21 主要な駅周辺の再開発
- 22 道路・歩道の整備やバリアフリー化
- 23 漁業・農業の振興
- 24 港湾の基盤整備
- 25 市民が学習・運動する機会の創出
- 26 学校教育の充実
- 27 特になし
- 28 わからない
- 29 その他（ ）

問5 あなたが、横須賀市の取り組みの中で、今後特に力を入れてほしいと感じるものはどれですか。
(○はいくつでも)

1	国際交流の推進
2	行財政改革の推進
3	情報公開や広報活動の充実
4	市政への市民参加や住民自治の推進
5	地域におけるつながりの促進
6	防犯対策や交通安全対策
7	災害対策
8	文化的な催しや文化施設の整備
9	性別や国籍など多様性の尊重
10	地域経済の振興と雇用の促進
11	観光推進、都市イメージの向上
12	公園の美化・維持管理
13	大気汚染や騒音・振動などの公害防止対策
14	ごみの減量化やポイ捨てごみ対策
15	子育て支援
16	高齢者福祉
17	障害者福祉
18	自然環境の保全
19	健康診断、がん検診、健康相談など、健康づくりのための取り組み
20	商店街振興
21	主要な駅周辺の再開発
22	道路・歩道の整備やバリアフリー化
23	漁業・農業の振興
24	港湾の基盤整備
25	市民が学習・運動する機会の創出
26	学校教育の充実
27	特にない
28	わからない
29	その他 ()

問6 あなたは、横須賀市が進めている取り組みを総合的に見たとき、どの程度満足していますか。
(○は1つ)

1 満足している	4 やや不満である
2 ほぼ満足している	5 不満である
3 どちらともいえない	6 わからない

Ⅲ 定住意識について伺います

問7 あなたは、横須賀市に通算でどのくらいの期間住んでいますか。(○は1つ)

1 1年未満	5 20年以上 30年未満
2 1年以上 5年未満	6 30年以上 40年未満
3 5年以上 10年未満	7 40年以上 50年未満
4 10年以上 20年未満	8 50年以上

問8 横須賀市に引っ越してくる前は、どちらにお住まいでしたか。(○は1つ)

1 生まれてからずっと横須賀市に住んでいる	5 川崎市
2 三浦市	6 その他神奈川県内
3 鎌倉市、逗子市、葉山町	7 東京都・埼玉県・千葉県
4 横浜市	8 その他(具体的に.....県市・町・村)

問9 あなたは、これからもずっと今のお住まいに住み続けるお気持ちですか。(○は1つ)

1 住み続ける	3 たぶん転居する	5 わからない
2 たぶん住み続ける	4 転居する	

↓
問10へ
↓
問9-1へ
↓
問10へ

【問9で、「3、4」を選んだ方に】

問9-1 次の引っ越し先としては、どちらを希望されますか。(○は1つ)

1 横須賀市内	2 横須賀市外	3 具体的にはわからない
---------	---------	--------------

具体的に希望がありましたらお答えください。(具体的に.....県.....市・町・村)

問10 次の項目について、定住意識の向上には、どの程度必要だと思いますか。当てはまるものをお選びください。(○はそれぞれ1つ)

	1 とても必要 だと思う	2 必要だ と思う	3 どちら ともい えない	4 必要だ と思わ ない	5 全く必 要だと思 わない
① 子育て環境の整備や支援の充実	1	2	3	4	5
② 教育環境の整備や支援の充実	1	2	3	4	5
③ 医療体制の整備や支援の充実	1	2	3	4	5
④ 福祉支援の充実	1	2	3	4	5
⑤ 就労支援や雇用の促進	1	2	3	4	5
⑥ 防災や防犯などの安心・安全対策	1	2	3	4	5

Ⅳ 暮らしやすさについて伺います

問1 1 今のお住まいや周辺の環境をどのように感じていますか。(○は1つ)

1 暮らしやすい	4 どちらかという暮らしにくい
2 どちらかという暮らしやすい	5 暮らしにくい
3 どちらともいえない	

問1 2 今のお住まいの周辺の環境で、暮らしやすいと感じているのはどのような点ですか。
(○はいくつでも)

1 周辺の静かさ	8 病院・医院の近さ
2 緑や自然やオープンスペースの豊かさ	9 ふだん買い物をする場所の近さ
3 街並みなどの景観の良さ	10 飲食やショッピングの便利さ
4 保育所や公園などの子育ての環境の良さ	11 遊びや余暇活動の便利さ
5 学校、図書館など教育・学習環境の良さ	12 防災・防犯などの安心さ
6 近所づき合いのしやすさ	13 その他 ()
7 交通・通勤などの便利さ	14 特にな

問1 3 仮に、今のお住まいから転居するとしたら、新しいお住まいの周辺の環境で、特に重視するのはどのような点ですか。(○は3つまで)

1 周辺の静かさ	8 病院・医院の近さ
2 緑や自然やオープンスペースの豊かさ	9 ふだん買い物をする場所の近さ
3 街並みなどの景観の良さ	10 飲食やショッピングの便利さ
4 保育所や公園などの子育ての環境の良さ	11 遊びや余暇活動の便利さ
5 学校、図書館など教育・学習環境の良さ	12 防災・防犯などの安心さ
6 近所づき合いのしやすさ	13 その他 ()
7 交通・通勤などの便利さ	14 特にな

問1 4 住まいに関する次のような意見について、あなたはどのように思いますか。当てはまるものをお選びください。(○はそれぞれ1つ)

	1 そう思う	2 どちらか といえば そう思う	3 どちらと もいえない	4 どちらか といえば そう思わ ない	5 そう思わ ない
① 同じ場所にずっと住むよりも、生活の変化に応じて住み替えたい	1	2	3	4	5
② 家やマンションを購入するより賃貸のほうがよい	1	2	3	4	5
③ 購入するとしたらマンションより一戸建てのほうがよい	1	2	3	4	5
④ 便利でにぎやかな都心より不便でも静かな郊外に住みたい	1	2	3	4	5
⑤ 住まいの場所については交通の便が重要だ	1	2	3	4	5

V 生活意識について伺います

問15 あなたは、生活に関するさまざまな分野における満足の度合いについて、「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。
(○はそれぞれ1つ)

	非常に満足 している  全く満足 していない										
① 家計と資産	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
② 雇用環境と賃金	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
③ 住宅	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
④ 仕事と生活 (ワークライフバランス)	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑤ 健康状態	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑥ あなたご自身の教育水準・ 教育環境	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑦ 交友関係やコミュニティなど 社会とのつながり	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑧ 生活を取り巻く空気や水などの 自然環境	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑨ 身の周りの安全	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑩ 子育てのしやすさ	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0
⑪ 介護のしやすさ・されやすさ	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0

問16 あなたは、全体として現在の生活にどの程度満足していますか。「全く満足していない」を0点、「非常に満足している」を10点とすると、何点くらいになると思いますか。(○は1つ)

	非常に満足 している  全く満足 していない										
現在の生活全体の満足度	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	0

問17 問16でお伺いした「現在の生活全体の満足度」を判断する際に、重視した事項は何ですか。
第1位から第3位の順に、それぞれ1つずつ選んで、番号をお書きください。

- | | |
|---------------------|-------------------------|
| ① 家計と資産 | ⑦ 交友関係やコミュニティなど社会とのつながり |
| ② 雇用環境と賃金 | ⑧ 生活を取り巻く空気や水などの自然環境 |
| ③ 住宅 | ⑨ 身の周りの安全 |
| ④ 仕事と生活（ワークライフバランス） | ⑩ 子育てのしやすさ |
| ⑤ 健康状態 | ⑪ 介護のしやすさ・されやすさ |
| ⑥ あなたご自身の教育水準・教育環境 | |

回答欄

第1位	第2位	第3位

問18 あなたは、近頃、ご自分やご家族の生活のことで心配ごとや困っていることがありますか。
(〇は3つまで)

- | | | | |
|---|-----------------|----|-----------------|
| 1 | 自分の病気や健康、老後のこと | 8 | 近隣からの悪臭・騒音 |
| 2 | 家族の病気や健康、生活上の問題 | 9 | 環境問題 |
| 3 | 失業・倒産や収入が減ること | 10 | 事故や災害のこと |
| 4 | 仕事や職場のこと | 11 | 犯罪や防犯のこと |
| 5 | 景気や生活費のこと | 12 | 住宅のこと |
| 6 | 子どもの保育や教育のこと | 13 | その他（ ） |
| 7 | 子どもの結婚や就職のこと | 14 | 心配ごとや困っていることはない |

VI 隣近所や地域とのつき合いについて伺います

問19 あなたは、隣近所と普段どのようなつき合い方をしていますか。(○は1つ)

- 1 顔もよく知らない
- 2 道で会えば挨拶ぐらいする
- 3 たまに立ち話をする
- 4 一緒に買い物に行ったり、気の合った人と親しくしている
- 5 困ったとき、相談したり助け合ったりする

問20 あなたは、隣近所とのつき合いをどのように感じていますか。(○は1つ)

- 1 互いに干渉しあわず、さばさばしていて暮らしやすい
- 2 人間関係が薄く、みながばらばらな感じでさびしい
- 3 親密な人間関係があって、暮らしやすい
- 4 人間関係が濃密で、わずらわしい

問21 あなたは、現在、地域でどのような活動に参加していますか。(○はいくつでも)

- 1 自治会、町内会の活動
- 2 子ども会、婦人会、老人クラブの活動
- 3 高齢者や障害者への手助けや交流などの福祉活動
- 4 身近な道路や公園などの清掃活動
- 5 文化・芸術活動への参加や振興
- 6 スポーツや健康づくりの活動への参加や振興
- 7 祭や盆踊り、運動会などのイベント
- 8 資源回収やごみの分別、リサイクル活動
- 9 PTA 活動や学校行事での手伝い・ボランティアなど
- 10 交通安全や防災・防犯などの地域の安全活動
- 11 その他（具体的に _____ ）
- 12 特にない

問22 あなたは、今後、地域の活動に参加するなど、地域の人ともっと親しくしたり、地域との関わりをより深めたいと思っていますか。あなたのお気持ちに最も近いものを選んでください。(○は1つ)

- 1 現在、十分に関わりがあるが、もっと深めたい
- 2 現在、十分に関わりがあるので、このままでよい
- 3 現在、関わりがあるが、もう少し関わりを減らしたい
- 4 現在、関わりがあるが、地域との関わりはできるだけ持ちたくない
- 5 現在、あまり関わりがないので、もっと深めたい
- 6 現在、あまり関わりがないが、このままでよい

あなた自身のことについてお伺いします

最後に、あなた自身のことについてお伺いします。統計上、必要なものですので、全員の方がお答えくださいますようお願いいたします。

F 1 あなたの性別を教えてください。(〇は1つ)

※身体上、戸籍上の性別に関わらず、ご自身が認識しているものを選んでください。

1 男性	2 女性	3 その他
------	------	-------

F 2 あなたの年齢を教えてください。(〇は1つ)

1 15～19 歳	4 30～34 歳	7 45～49 歳	10 60～64 歳	13 75～79 歳
2 20～24 歳	5 35～39 歳	8 50～54 歳	11 65～69 歳	14 80～84 歳
3 25～29 歳	6 40～44 歳	9 55～59 歳	12 70～74 歳	15 85 歳以上

F 3 あなたのお住まいの地域を教えてください。(〇は1つ)
(次ページに地域別一覧表があります。ご参照ください。)

1 本庁地域	3 田浦地域	5 衣笠地域	7 浦賀地域	9 北下浦地域
2 追浜地域	4 逸見地域	6 大津地域	8 久里浜地域	10 西地域

F 4 あなたは結婚なさっていますか。(内縁・事実婚含む)(〇は1つ)

1 結婚している(配偶者あり)
2 結婚していた(配偶者と離別または死別)
3 結婚したことはない

F 5 あなたが同居している家族の構成は、次のどれにあたりますか。あなたを含めてお答えください。(〇は1つ)

1 一人暮らし	→ F 7へ	4 祖父母と親と子(3世代)
2 夫婦のみ		5 その他
3 親と子(2世代)		()

F 6 同居者がいる方だけにおたずねします。同居している方の中で、以下にあてはまる方はいますか。(〇はいくつでも)

1 未就学児	4 65～74 歳の方
2 小学生・中学生・高校生	5 75 歳以上の方
3 短大生・専門学校生・大学生・大学院生	6 選択肢にあてはまるものはいない

F 7 あなたの現在のお住まいは、次の選択肢の中のどれにあたりますか。(〇は1つ)

1 持ち家(一戸建)	5 市営住宅や県営住宅などの公営住宅
2 持ち家(マンションなどの集合住宅)	6 社宅・寮・公務員住宅
3 賃貸住宅(一戸建)	7 その他
4 賃貸住宅(マンション・アパートなどの一般的な民間の集合住宅)	

F8 あなたの主なご職業を教えてください。(〇は1つ)

1 自営業主	6 主婦・主夫(家業専業)
2 自営業の手伝い(家族従業者)	7 学生
3 会社などの経営者・役員	8 無職
4 正社員・正職員	9 その他
5 パート・アルバイト・嘱託職員・派遣社員(正社員・正職員以外)	

《調査項目は以上です。ご協力ありがとうございました。》

地域別一覧表

(町名)		(地域別)
稲岡町、不入斗町、上町、小川町、大滝町、楠ヶ浦町、坂本町、佐野町、猿島、汐入町、汐見台、新港町、田戸台、鶴が丘、泊町、日の出町、深田台、富士見町、平成町、平和台、望洋台、本町、緑が丘、三春町、安浦町、米が浜通、若松町	➡	①本庁地域
浦郷町、追浜町、追浜東町、追浜本町、追浜南町、湘南鷹取、鷹取、夏島町、浜見台	➡	②追浜地域
田浦町、田浦泉町、田浦大作町、田浦港町、長浦町、箱崎町、船越町、港が丘	➡	③田浦地域
安針台、西逸見町、東逸見町、逸見が丘、山中町、吉倉町	➡	④逸見地域
阿部倉、池上、大矢部、金谷、衣笠町、衣笠栄町、公郷町、小矢部、平作、森崎	➡	⑤衣笠地域
池田町、大津町、桜が丘、根岸町、走水、馬堀町、馬堀海岸	➡	⑥大津地域
浦賀、浦賀丘、浦上台、小原台、鴨居、光風台、西浦賀、東浦賀、二葉、南浦賀、吉井	➡	⑦浦賀地域
岩戸、内川、内川新田、久比里、久村、久里浜、久里浜台、佐原、神明町、長瀬、ハイランド、舟倉、若宮台	➡	⑧久里浜地域
栗田、グリーンハイツ、津久井、長沢、野比、光の丘	➡	⑨北下浦地域
秋谷、芦名、太田和、荻野、子安、佐島、佐島の丘、湘南国際村、須軽谷、武、長井、長坂、林、御幸浜、山科台	➡	⑩西地域

